鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報

32

平成 28(2016) 年度事業報告

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

平成 30(2018) 年 3 月

序　文

鹿児島大学キャンパスは，後期旧石器時代から現代まで長期にわたる多くの貴重な埋蔵文化財が包蔵されている遺跡です。埋蔵文化財調査センターでは，その前身である埋蔵文化財調査室が発足した昭和 60(1985) 年 6 月 1 日より，学内遺跡の調査・研究を行っております。またその成果は，『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書』として逐次報告してまいりました。

今年度は，鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの平成 28 年度事業報告として『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』vol. 32 を刊行することになりました。平成 28 年度は，発掘調査 1 件，立会調査 12 件のほか，遺物整理作業，公開講座などを実施しており，本書にはこれらの事業概要が掲載されています。

現在も，キャンパス内では多くの施設整備事業が実施されておりますが，埋蔵文化財調査センターでは，これらの整備事業が埋蔵文化財保護法を遵守しつつ，すすめられるよう努力するとともに，調査で得られた成果を速やかに社会に還元できるよう，全力を尽くす所存です。

埋蔵文化財調査センターの活動につきましては，今後とも，皆様方のご理解と支援をお願い申しあげます。

平成 30 年 3 月

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長
鹿児島大学埋蔵文化財調査委員長
中村　直子

例　　言

1．本書は，平成 28 年度 (2016 年度) に鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが実施した事業の概要報告である。

2．本書に掲載している発掘調査は，鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが担当した。立会調査は，鹿児島市教育委員会が担当し，鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが補助した。

3．本書の作成にあたっては，埋蔵文化財調査センターが行った。担当者は以下の通りである。
遺物実測　寒川朋枝・篠原美智子
製図　寒川・篠原・相良暁子
遺物写真撮影　寒川
作表・執筆　寒川・中村・新里・相良・篠原
編集　寒川・中村直子・新里貴之

4．本報告の出土遺物について，陶磁器類は渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部）より御教示を賜った。

5．本書で報告している遺物の保管は，埋蔵文化財調査センターの管理のもと，学内の出土部局収蔵施設にて保管して いる。また，図版・写真などの資料は埋蔵文化財調査センターに保管している。

凡　　例

1．昭和 60 年 6 月 1 日の埋蔵文化財調査室の設置を機として，鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように，鹿児島大学構内座標を郡元団地と脇田亀ヶ原遺跡（桜ヶ丘団地（旧宇宿団地））とに設定した。その設置基準は以下のとおりである。

（1）郡元団地では，日本測地系による国土座標第 2 座標系（X＝－ 158,200，Y＝－ 42,400）を基点として一辺 50 mの方形地区割りを行った（Fig. 2 参照）。

（2）桜ヶ丘団地では，日本測地系による国土座標第 2 座標系（X＝－ 161,600，Y＝－ 44,400）を基点として一辺 50 mの方形地区割りを行った（Fig. 3 参照）。

2．遺構配置図などは世界測地系で示している。

3．本報告書におけるレベル高は，すべて海抜を表し，方位は真北方向を示す。

4．本書で使用した遺構の表示記号は，以下の通りである。

SK：土坑，SD：溝，P：ピット，SR：杭列

5．土層・遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぽう　32
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報　32
編著者	寒川朋枝・中村直子・新里貴之
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター
所在地	〒890-8580　鹿児島市郡元一丁目21番24号 ℡　099-285-7270　Fax　099-285-7271
発行年月日	2018年3月

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内遺跡郡元団地	鹿児島市郡元1丁目20-15	4620	1-23-0	31.572348°	130.54575°	2016年8月1日～2017年3月14日	503㎡	施設整備事業
脇田亀ヶ原遺跡（鹿児島大学構内遺跡桜ヶ丘団地）	鹿児島市桜ヶ丘8丁目35- 1	4620	1-23-0	31.548192°	130.52642°	2016年5月31日～2017年3月14日	252㎡	施設整備事業

所収遺跡	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鹿児島大学構内遺跡郡元団地	近世～近代 中世～古墳時代	水田跡 水田・畑跡・溝 住居跡	陶磁器 土師器 成川式土器片 弥生土器片	立会調査
脇田亀ヶ原遺跡（鹿児島大学構内遺跡桜ヶ丘団地）	近世～縄文時代		陶磁器 金属器 土器小片	発掘調査 立会調査

目　　次

Ⅰ　平成 28（2016）年度の事業概要 ･･･ 1

Ⅱ　発掘調査の概要 ･･･ 5
　　2016-1　桜ヶ丘団地 C-6 区（医療ガスボンベ庫新営その他工事に伴う発掘調査）

Ⅲ　立会調査 ･･･ 22

Ⅳ　遺物整理 ･･･ 38

Ⅴ　刊行物 ･･･ 38

Ⅵ　遺物保管 ･･･ 38

Ⅶ　普及・啓発活動 ･･･ 38

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則 ･･･ 41
鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則 ･･･ 42

Ⅰ　平成 28（2016）年度の事業概要

平成 28（2016）年度は，発掘調査 1 件，立会調査 12 件を実施した（Tab.1）。遺物整理作業は 3 件，刊行物として，発掘調査報告書第 13 集，年報 31 を刊行した。そのほか，遺物保管作業 2 件，また普及啓発活動として公開講座を開催したほか，地域貢献として地中レーダー探査調査を 3 件行った。発掘調査，立会調査の詳細，その他の事業に関しては，下に記す通りである。

Tab.1　平成 28（2016）年度事業一覧

事業	コード	調査区	工事名称	担当者	期間
発掘	2016-1	桜ヶ丘 C-6	医療ガスボンベ庫新営その他工事に伴う発掘調査	中村	2016 年 10 月 7 日～ 21 日

事業	コード	調査区	工事名称	担当者		工事期間
				市教委	調査セ	
立会	2016-A	桜ヶ丘 B-4	（病）駐車場 A ゲート東側法面掘削工事	新保	新里	2016 年 5 月 31 日
	2016-B	郡元 R･S-6･7	教育学部附属小学校遊具（高鉄棒・うんてい）撤去工事	新保	新里	2016 年 8 月 1 日
	2016-C	郡元 A~C-5･6	小動物臨床獣医学研修センター (仮称) 新営その他機械設備工事	新保	新里	2016 年 9 月 5･29･30 日 2016 年 10 月 14 日
	2016-D	郡元 B -6	小動物臨床獣医学研修センター (仮称) 新営その他工事	新保	新里	2016 年 9 月 5 日
	2016-E	桜ヶ丘 C-6	基幹・環境整備 (医療ガス設備) 工事	新保	新里	2016 年 12 月 7 日
	2016-F	郡元 G-9	連合農学研究科棟身障者トイレ改修その他工事	新保	新里	2017 年 2 月 14 日
	2016-G	桜ヶ丘 C-6	医療ガスボンベ庫新営その他工事	新保	新里	2016 年 12 月 14 日 2017 年 1 月 18 日，2 月 21 日
	2016-H	郡元 Q -6	南地区給水設備修繕工事		新里	2017 年 1 月 6 日
	2016-J	郡元 E-10	外灯設備改修工事		新里	2017 年 3 月 21 日
	2016-K	桜ヶ丘 H~M-8･9	外灯設備改修工事	新保	中村	2017 年 3 月 14 日
	2016-L	郡元 I-5	共通教育棟 1 号館北側埋設排水管修繕工事		新里	2017 年 3 月 31 日
	2016 慎重 4	郡元 K-4	法文学部植樹工事		新里	2016 年 12 月 26 日

事業	コード	調査区	内容	事業	担当者
遺物整理	1995-6	桜ヶ丘	医学部付属病院 MRI-CT 装置棟増築に伴う発掘調査	分類・実測・トレース・写真撮影	寒川・相良・篠原・山口・東
	2015-A~M	郡元・桜ヶ丘	平成 27 年度立会調査	注記・実測・トレース・写真撮影	新里・相良・篠原・山口
	2007-2	郡元	共通教育棟 2 号館建設に伴う発掘調査	注記	中村・桐木平・柴田・下田・東
	1976-1	郡元	釘田第 8 地点土器	注記・分類・実測	新里・桐木平・柴田・下田・東

事業	内容	担当者	発行
刊行物	報告書　鹿児島大学埋蔵文化財調査報告書　第 13 集	寒川・中村・新里	2017 年 3 月
	年報　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 31	新里・中村・寒川	2017 年 3 月

事業	内容	担当者	期間
遺物保管	遺物保管場所確認作業（15 ヶ所）	中村・新里・寒川	2016 年 5 月 10 ～ 11 日
	木製品水替え	中村・新里・寒川	2016 月 7 月 1 ～ 6 日

事業	内容	担当者	期間
普及啓発活動	埋蔵文化財調査センターリーフレット改訂版作成	中村・新里・寒川	2016 年 6 月 6 日
	法文学部博物館実習受け入れ・指導	中村・新里・寒川	2016 年 6 月 25 日
	資料貸出（須恵器）宮崎県立西都原考古博物館国際交流展「馬韓・百済と南九州」	中村・新里・寒川	2016 年 8 月 30 日～ 12 月 16 日
	資料貸出（土器・木製品）鹿児島市ふるさと考古歴史館特別企画展「鹿児島市の発掘調査の発掘調査の歩み : これまでの 100 年、そして未来へ」	中村・新里・寒川	2016 年 9 月 5 日～ 12 月 2 日
	公開講座『考古学の諸分野』	中村・新里・寒川	2016 年 10 月 22 日
	資料貸出（鹿大構内遺跡資料）「大学生による小学校出前授業」のため鹿大法文学部へ貸出	中村・新里・寒川	2016 年 11 月 22 ～ 30 日
	埋蔵文化財調査センター報告書・年報 PDF 化作業	中村・新里・寒川	2016 年 5 月 9 日～ 12 月 30 日

事業	内容	担当者	期間
地域貢献	地下レーダー探査関連調査：都城市志和池地下式横穴墓群（古墳時代）	中村・新里・寒川	2016 年 7 月 6 日
	地下レーダー探査関連調査：都城市郡元西原遺跡（中世大溝・その他遺構）	中村・新里・寒川	2016 年 8 月 12 日
	地下レーダー探査関連調査：大崎町横瀬地区　試掘調査	中村・新里・寒川	2016 年 9 月 28 日

Fig. 1　鹿児島大学構内遺跡の位置　　国土地理院鹿児島南部 1：25000（平成 16 年発行）を改変

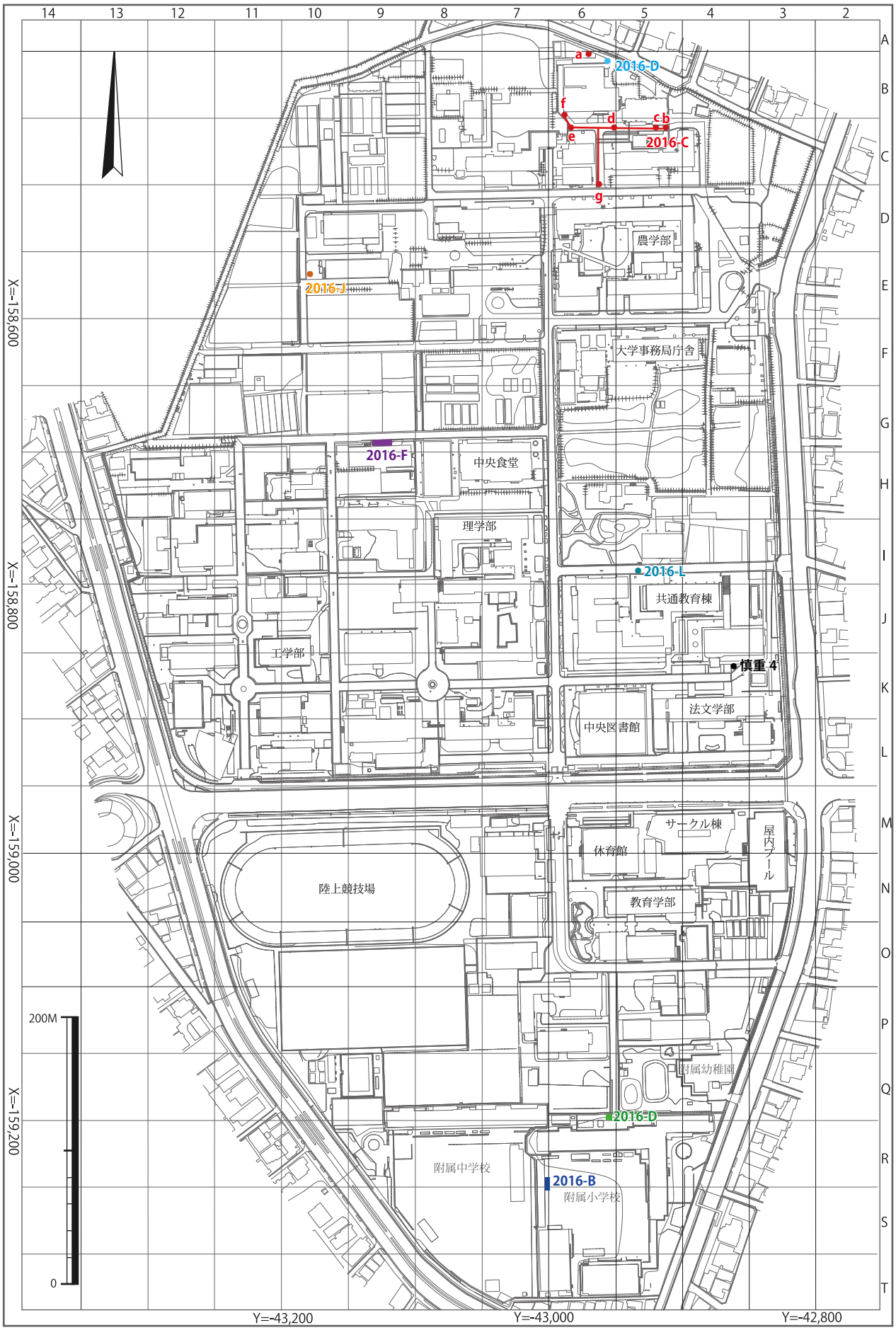


Fig. 2　郡元団地構内図（S=1/4000）

Fig. 3　脇田亀ヶ原遺跡（桜ヶ丘団地）図（S=1/4000）

Ⅱ　発掘調査の概要

平成 28(2016）年度に行われた 2016-1 の発掘調査概要について述べる。

2016-1　桜ヶ丘団地Ｃ－６区 医療ガスボンベ庫新営その他工事に伴う発掘調査

１．調査にいたる経緯

鹿児島大学では，平成 28 年度に桜ヶ丘団地病棟東側隣接地にガスボンベ庫設置工事が計画された。工事掘削深度は地表下１ｍである。

過去の調査をみると，周辺では旧石器時代・縄文草創期・縄文早期・縄文後晩期・弥生時代・中世・近世の遺物包含層が確認されており，本工事地点も同時期の遺構が良好に残存していると予想された。桜ヶ丘団地には約 13000 年前に現在の桜島より噴出されたサツマ火山灰層が約 1.5m の厚さで堆積しているが，掘削深度が１ｍと浅いため，サツマ火山灰層より下位に存在する縄文時代草創期・旧石器時代の埋蔵文化財には工事の影響はないと推定された。よって，発掘調査はサツマ火山灰層の上面まで実施することとなった。

２．調査体制

所　在　地　鹿児島市桜ヶ丘８丁目 35 番１号
調査　起因　ガスボンベ庫設置工事
発掘主体者　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　センター長　中村直子　教授
発掘指導員　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　センター長　中村直子　教授
現場代理人　国際文化財株式会社　久堀聖能
発掘調査員　国際文化財株式会社　安村健
発掘作業員　赤尾和洋・鍛冶屋幸雄・川俣友秀・桐木平雅代・芝田恵子・下田まき子・高山重光
　　本田史比古・水迫久夫
調査　期間　平成年 10 月７日～ 21 日
調査　面積　28m^2

３．調査経過

調査に先立ち，10 月７・11 日に現代の客土である第１層を重機によって掘削した。東側は調査対象の深さまで撹乱を受けていた。

基本層位としては，１～６層までを確認した。２層以下は層ごとに掘削を実施し，遺構の確認を行った。作業工程としては，10 月 11・12 日 に２層を掘削，10 月 12 日に 3a 層上面遺構検出・掘削，10 月 13・14 日に 3b 層上面遺構検出・掘削，10 月 18 ～ 20 日に４層上面遺構検出・掘削と掘り下げ，10 月 20 日に５層上面検出・層位横転確認，10 月 21 日に掘削終了状態の写真撮影や壁面観察・写真撮影・測量などを実施し，調査を終了した。

主な成果としては，3a 層上面では近世のものと推定される溝状遺構とピットを検出し，３b 層上面では弥生時代と考えられる土壙２基，４層上面ではピット群を検出した。また，５層上面では，４層以下の土層による層位横転が確認できた。層位横転の状況を観察するため，北壁と西壁に沿って幅 50㎝のトレンチを設定した。深堀したところ，縄文時代早期の堆積層であるが遺物がまったく出土せず，また調査区南西側に傾斜してサツマ火山灰層の検出面がかなり深くなると推定できたことから，５層の遺物包含はほとんどないと判断し，掘削を終了した。

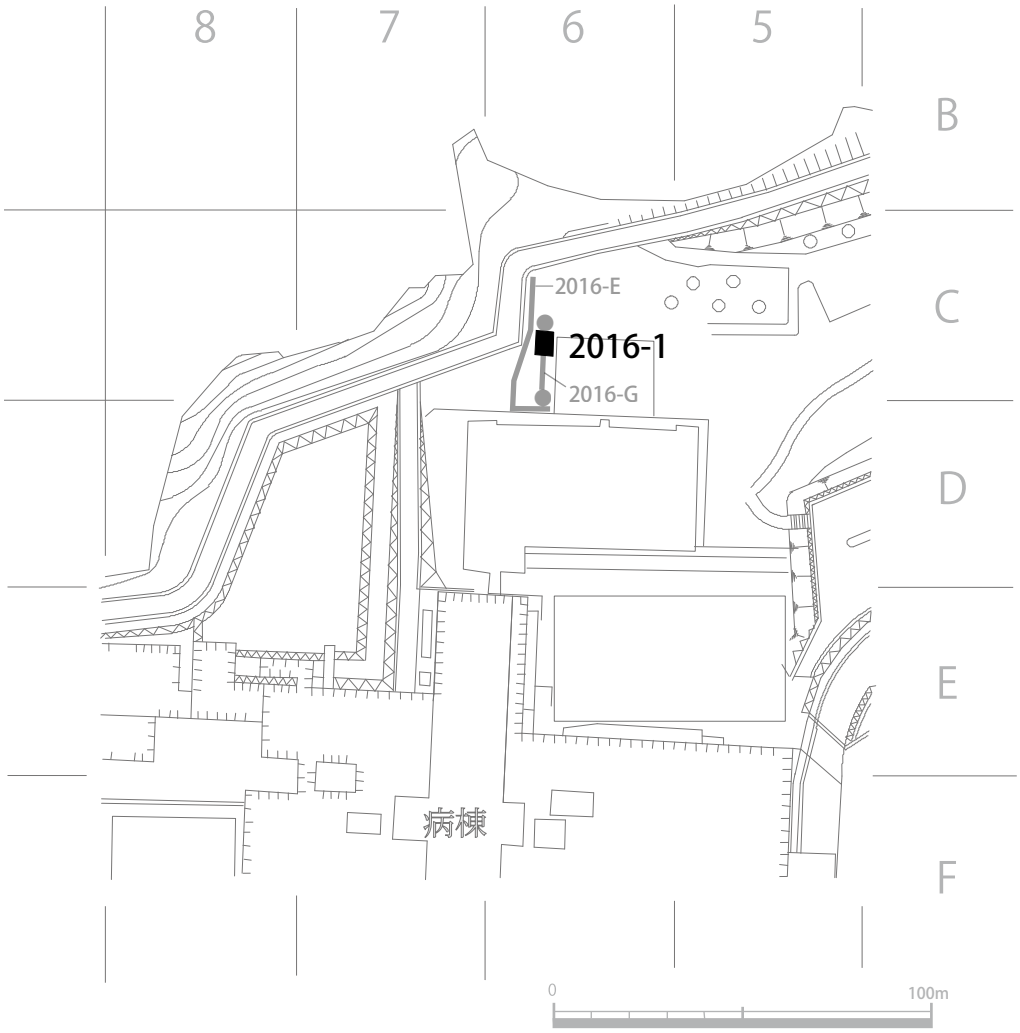


Fig. 4　2016-1 位置図

4.基本層位

基本層位としては，１～６層までを確認した。

１層　上部はアスファルトと砂利，下部は客土である。東側は現代の撹乱を受けている。

２層　10YR3/2 黒褐色・シルト質砂，パミス 0.5㎝の黒色ブロック，２・３㎝の黄褐色ブロック包含

2' 層 7.5YR3/1 黒褐色・シルト，白色パミスを少量包含

3a 層　10YR3/2 黒褐色・シルト

3b 層　7.5YR2/2 黒色・シルト，軽石礫を少量包含

４層　アカホヤ火山灰を基調とし，10YR5/4 にぶい黄褐色を呈する

４①層 10YR3/3 暗褐色・シルト質砂，方形の３㎝黄色パミス包含，アカホヤ最下層

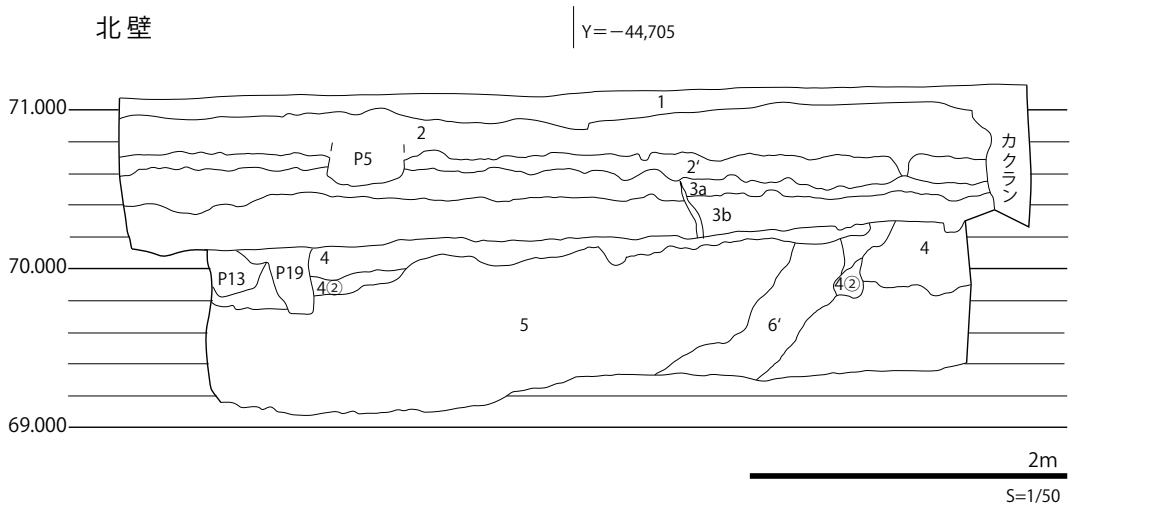
４②層　４①層に類似，１・２㎝のアカホヤブロックを含む

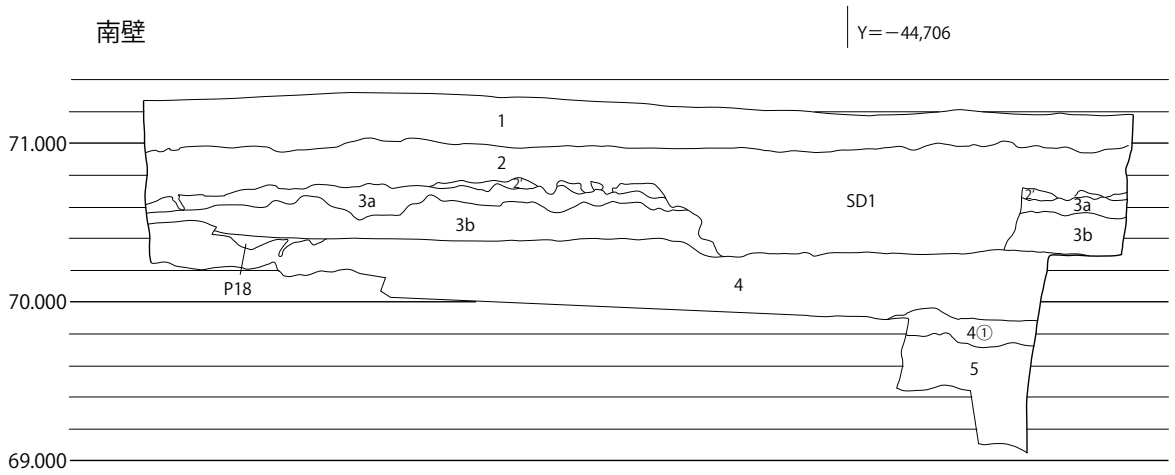
５層　10YR2/2 黒褐色

5' 層 10YR2/2 黒褐色シルト，５層を基調とするが，粘質あり

６層　サツマ火山灰を基調とする

6' 層　10YR3/3 暗褐色，黄色パミス，サツマを多く含む





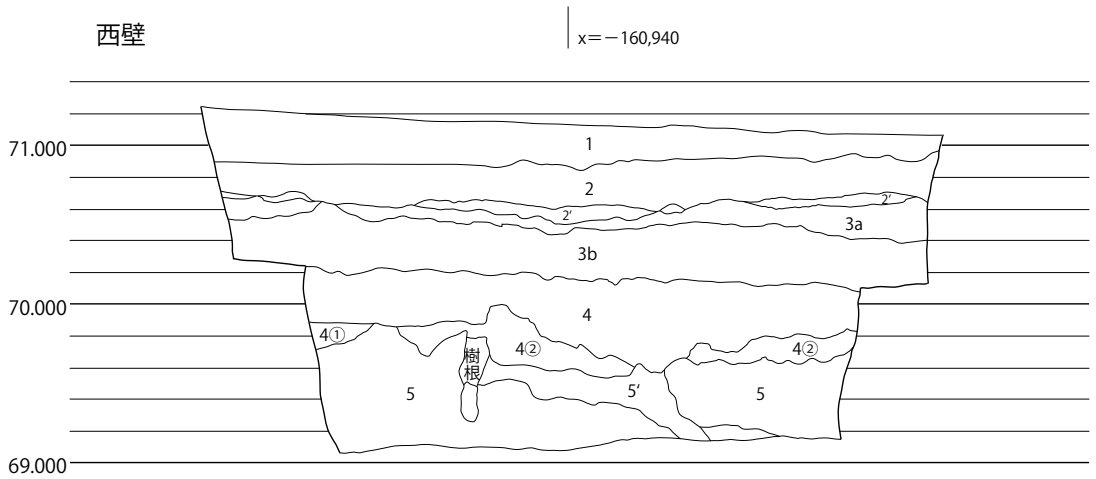


Fig. 5　2016-1 土層

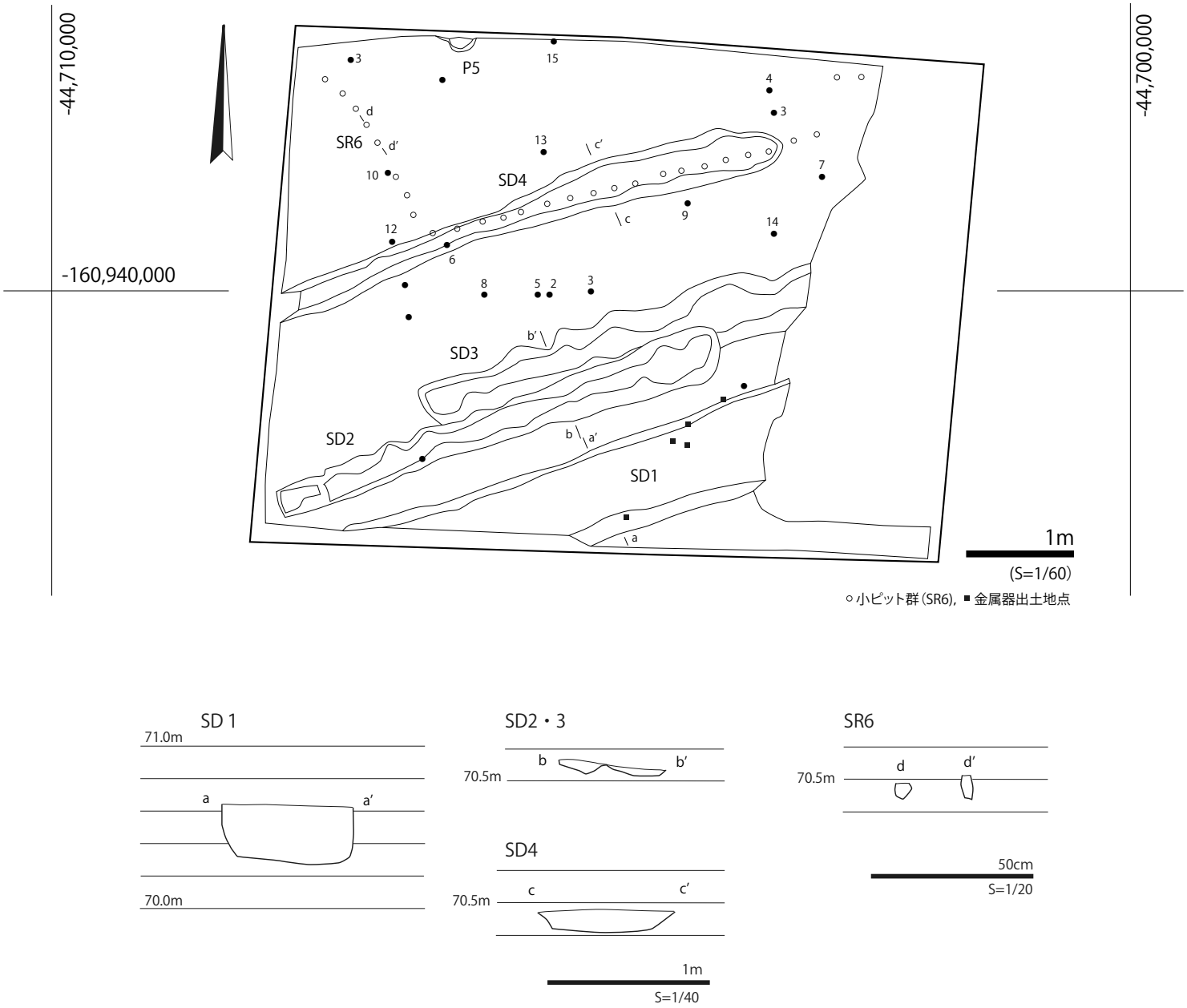


Fig. 6　3a 層上面検出遺構

5. 遺構

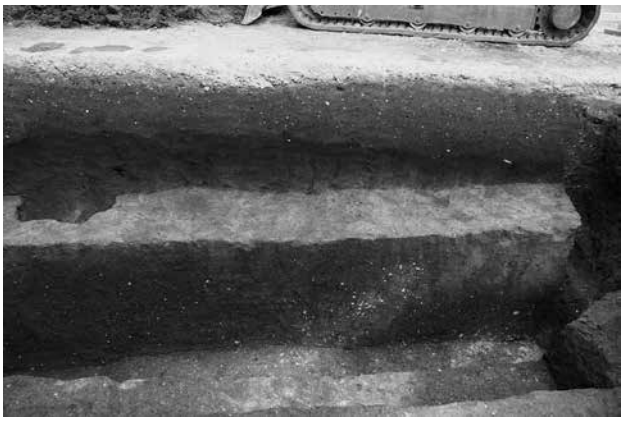
（1）3a 層上面検出遺構

3a 層上面では，溝状遺構を 4 条（SD1 ～ 4），杭列の可能性があるもの 1 基（SR 6），ピット 1 基（P 5）を検出した。溝状遺構はいずれも並行に位置し，SR 6 の並びも溝状遺構の方向と一致していることから，当時の土地区画の方向を反映しているものと考えられる。

SD 1

調査区南側に位置し，南南西－東北東に走るが，東側は撹乱によって壊されている。幅 70㎝，深さ 32㎝である。底面は平らで断面形は方形を呈する。埋土は，10YR3/2 黒褐色・シルト質砂，パミス 0.5㎝の黒色ブロック，2，3㎝の黄褐色ブロックを含む。埋土中より土器，鉄製品が出土しているが，どちらも小片で器種等不明である。

北壁西側土層断面


北壁東側土層断面

南壁土層断面

西壁土層断面

2 層掘削作業

3 層上面遺構検出状況

3 層上面小ピット群検出状況

3 層上面 SD 検出状況

PL. 1　　2016-1 土層，3 層上面遺構検出

3 層上面 SD 1検出 東から

3 層上面 SD 1埋土 東から

3 層上面 SD 1完掘 東から

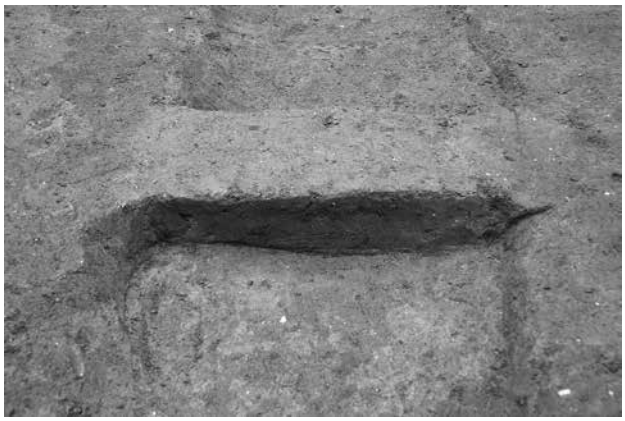
3 層上面 SD2・3 検出

3 層上面 SD 2埋土 東から

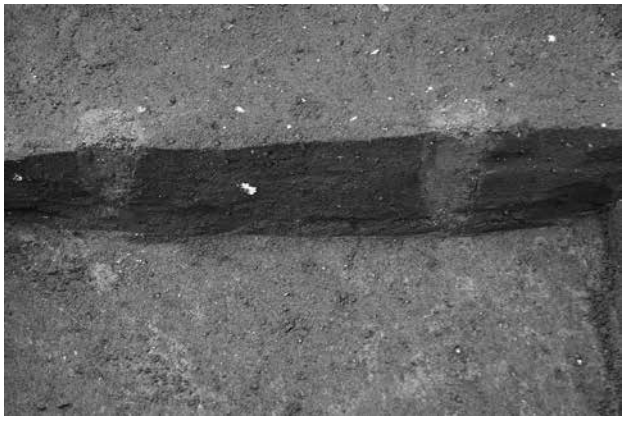
PL. 2　　2016-1 3 層上面遺構検出

3 層上面 SD ２断面 東から

3 層上面 SD ２・３断面 東から


3 層上面 SD ４断面 東から

3 層上面小ピット群検出 北から


3 層上面小ピット群断面 西から

3 層上面検出遺構完掘 東から

3 層上面検出遺構完掘 北から

作業風景

PL. ３　　2016-1 3 層上面遺構検出・完掘

SD 2

調査区中程に位置し，南南西－東北東に走るが，長さ約 430㎝である。SD 3の一部と重複しているが，SD 2が SD 3を切っている。幅 35㎝，深さ 8㎝で浅い。底面は丸みを帯びており，凹凸がある。埋土は，10YR4/2 灰黄褐色･砂質シルト，黄色パミス 0.5㎝以下を少し含んでいる。埋土中より陶磁器，土師器，瓦，土器，金属製品が出土している。

SD 3

調査区中程に位置し，南南西－東北東に走るが，東側は撹乱によって壊されている。SD 2の一部と重複しているが，SD 2に切られている。幅 38㎝，深さ 5㎝で浅い。底面は丸みを帯びており，凹凸がある。埋土は，10YR4/2 灰黄褐色・砂質シルト，0.5㎝以下のパミスを含んでいる。

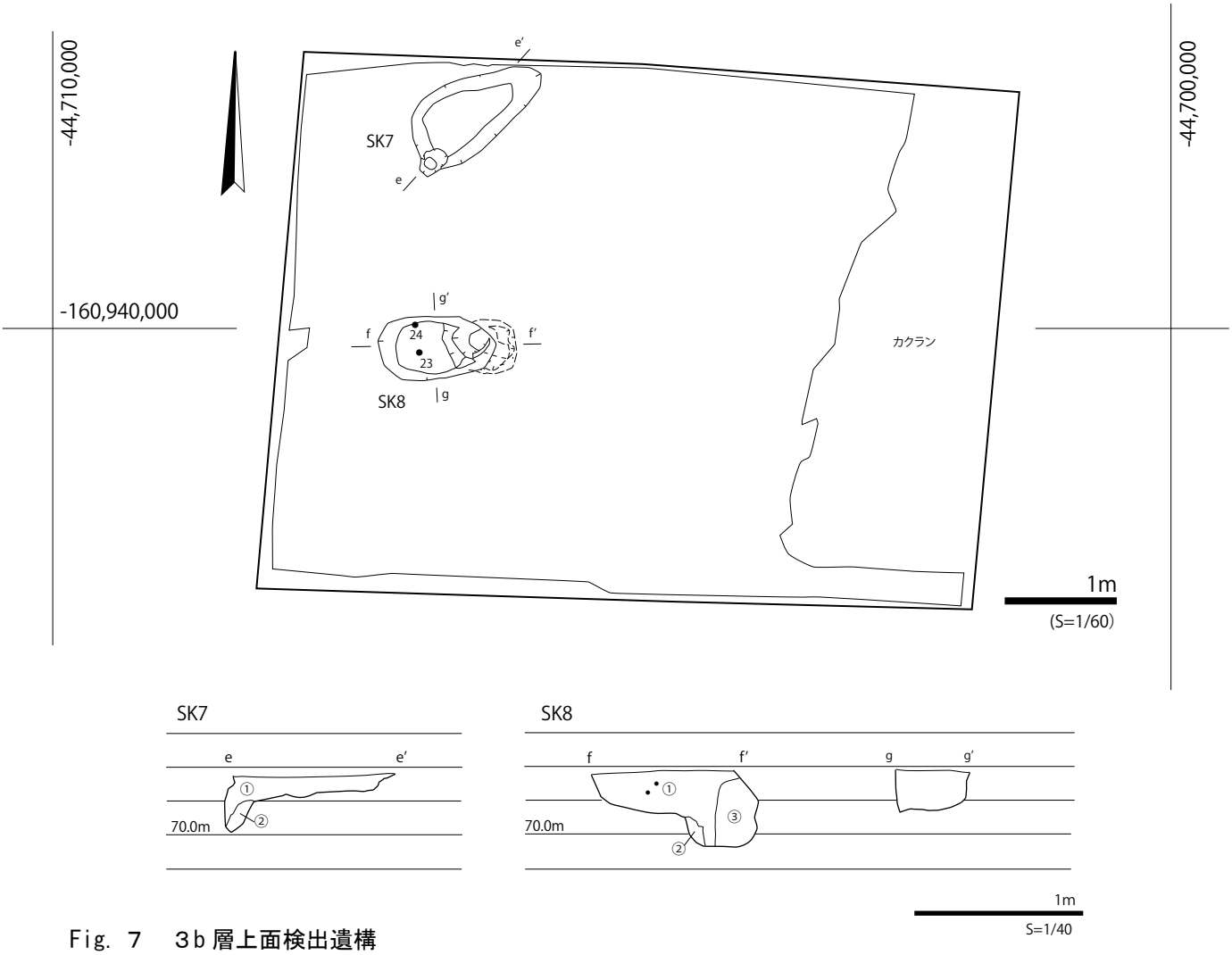


Fig. 7　3b 層上面検出遺構

SD 4

調査区北側に位置し，南南西－東北東に走るが，東側は途切れている。幅 40㎝，深さ 15㎝で，底面は平らで浅い。埋土は，10YR3/1 黒褐色・砂質シルト，0.5㎝のパミスを少し含む。遺物は出土していない。

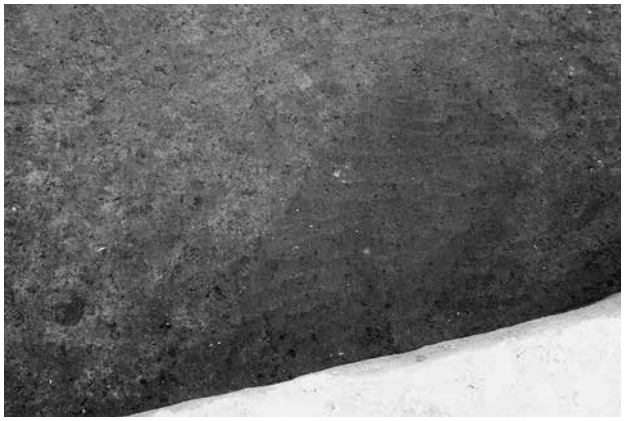
SR 6

検出当初, SD 4 に直交する並びを検出したが, SD 4 完掘後, SD 4 底面に小ピットの並びを検出した。少々軸がずれるが, SD 4 や他の溝状遺構とほぼ並行する。小ピットの断面を観察するため一部断ち割ったところ，小ピットは深さ 10㎝であった。

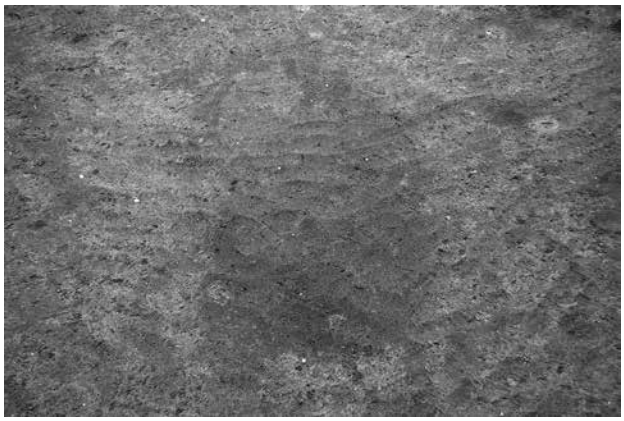
P 5

調査区北端に位置する。北半分は調査区外である。直径約 36㎝, 深さ 25㎝を測る。埋土は 10YR3/3 暗褐色・シルト質砂でやわらかい。

3b 層上面遺構検出状況



3b 層上面 SK7 検出



3b 層上面 SK8 検出

3b 層上面 SK7 完掘　南東から

3b 層上面 SK8 完掘　南から

3b 層上面 SK7・8 完掘　西から

PL. 4　　2016-1 3b 層上面遺構検出

（2）3b 層上面検出遺構

土壙２基を検出した。いずれも楕円形を呈し，長軸側一方の端部がピット状に窪み，上場ラインより奥に膨らむ形状を呈する。

SK 7

調査区北壁近くで検出された。平面形は南西－北東方向を長軸とする楕円形を呈する。長さ 130 センチ，幅 58 センチである。南西隅は底面から直径約 30㎝のピット状の落ち込みがあり，上場ラインより奥に掘り込まれている。深さは，土壙部が深さ 16㎝，ピット部が土壙床面より 24㎝である。

埋土は楕円状の土壙からのオーバーハング部分（埋土①）が 7.5YR2/1 黒色・シルト，３ａ層土に近く，ブロックなども含まない，ピット状底部付近（埋土②）は 10YR3/2 黒褐色・シルト，４層土を小ブロックで少し含んでいる。遺物は出土していない。

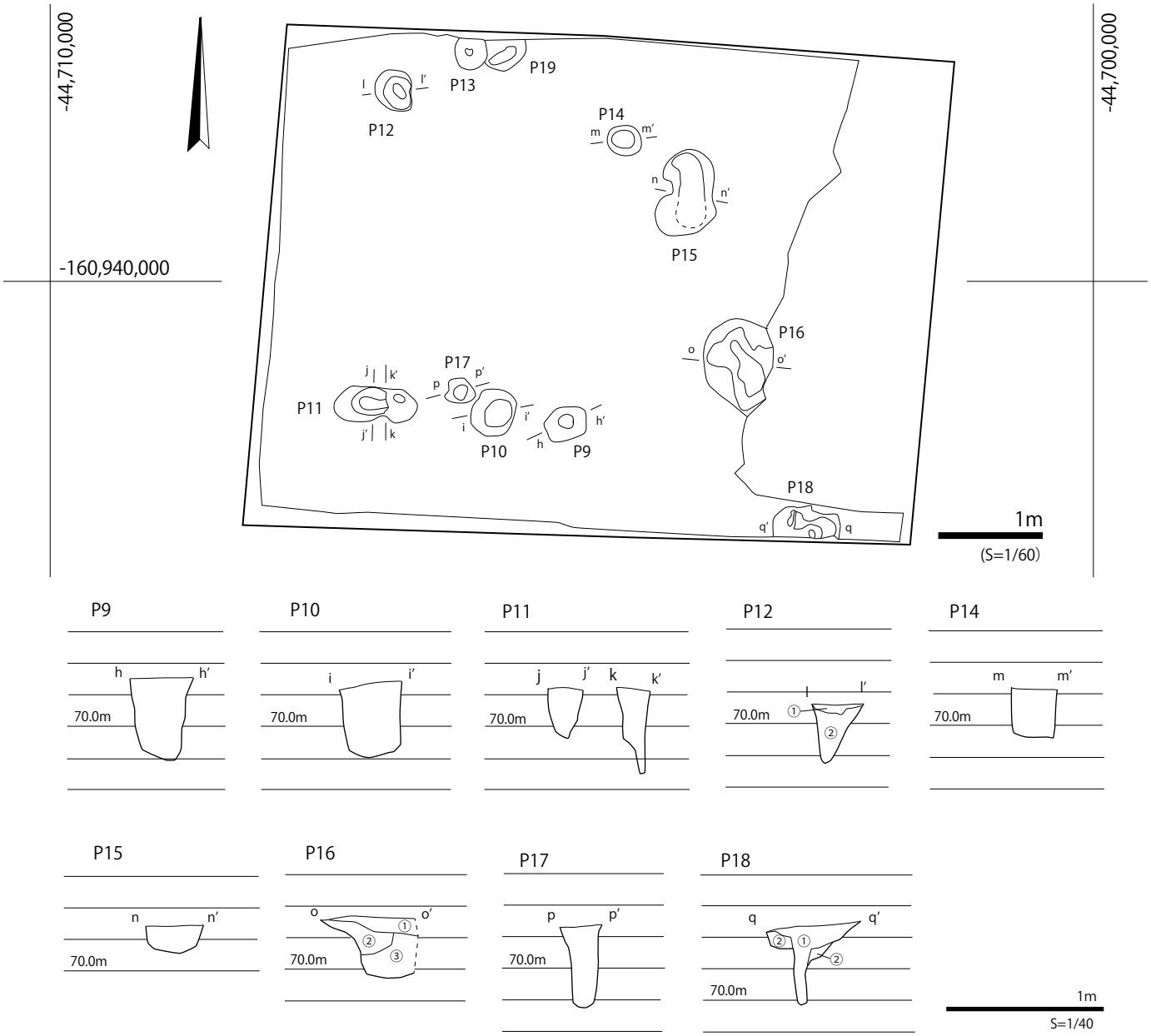


Fig. ８　４層上面検出遺構

SK 8

調査区中央付近で検出された。平面形は東西方向を長軸とする楕円形を呈する。長さ 124㎝，幅 51㎝である。西隅には底面から直径約 40㎝のピット状の落ち込みがあり，上場ラインより東奥に掘り込まれている。深さは，土壙部が 30㎝，ピット部が土壙床面より 24㎝である。

埋土は楕円状の土壙を中心とする部分（埋土①）が黒色シルト層，ピット状の西壁寄り埋土②は黒褐色砂質シルト層で４層土をブロックで少量含んでいる。埋土③は、埋土②に似ているが少し砂混じりである。埋土①は土壙部よりピット部中心に直立したように確認できる。遺物は、埋土中より時期不明の土器片２点が出土している。

（３）４層上面検出遺構

ピットを 11 基検出した。ピットの詳細は Tab. 2 の通りである。ピットは大きさ直径 30 ～ 99㎝，深さ 18 ～ 56㎝だが，規則的な並びはない。P18 はさらに外側に筋状に広がる部分もあり，樹根の可能性が高い。いずれも遺物の出土は見られない。

（４）５層上面検出面

４層であるアカホヤ火山灰以下の層について，調査区北側の半円状の範囲で横転が確認された。６層であるサツマ火山灰層土まで含まれる。壁面際に設定したトレンチでの土層観察によると，北西方向に横転したと推定できる。

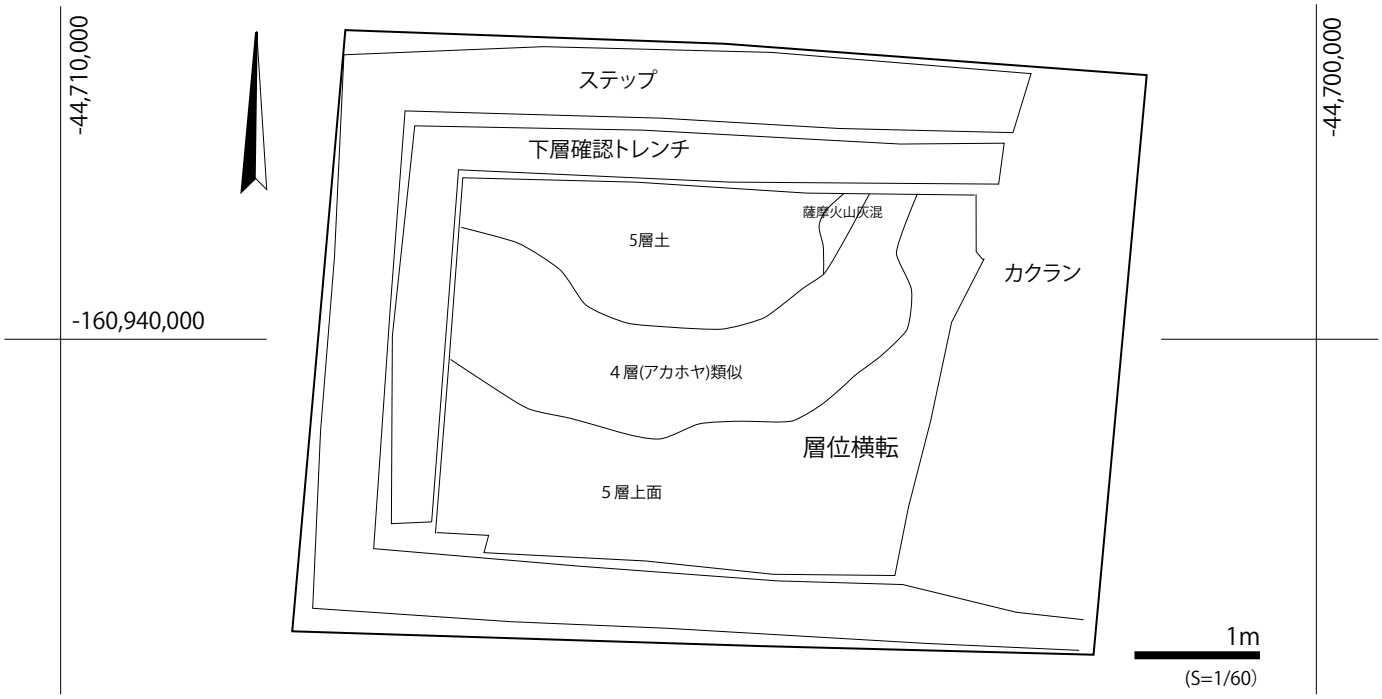
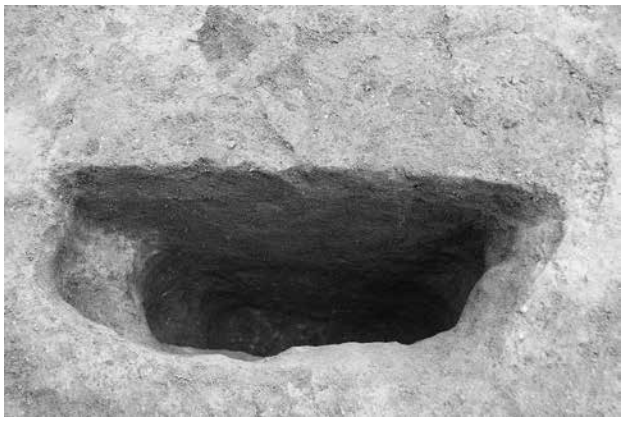


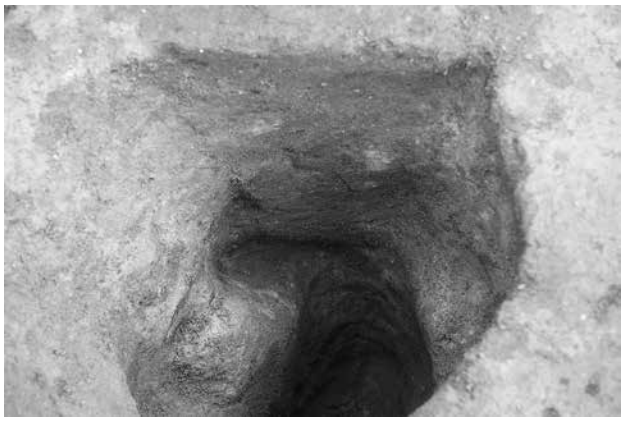
Fig. ９　５層上面検出遺構

４層上面 Ｐ９－19 検出


４層上面検出 Ｐ９断面 南から

４層上面検出 P10 断面 南から

４層上面検出 P11 西側断面 西から

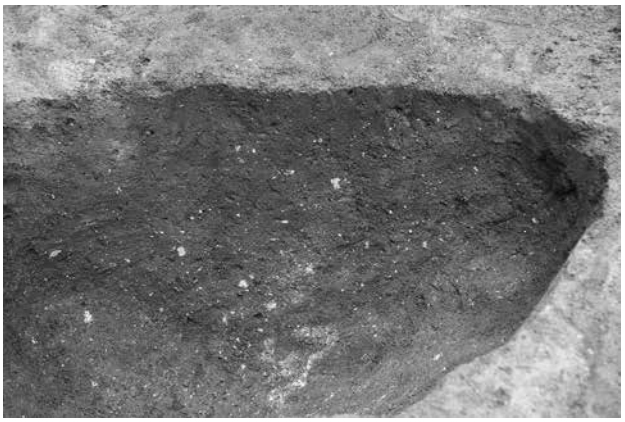

４層上面検出 P11 東側断面 東から

４層上面検出 P12 断面 北から

４層上面検出 P13 西側断面 南から

４層上面検出 P14 西側断面 北から

PL. ５　　2016－１４層上面遺構検出・半裁状況


４層上面検出　P15 断面　南から

４層上面検出　P16 断面　南から

４層上面検出　P17 断面　南から

４層上面検出　P18 断面　北から

４層上面検出　P19 断面　南から

４層上面完掘状況　西から

5 層上面層位横転検出　西から

PL.　6　　2016－1 4 層上面遺構検出 , 5 層上面層位横転検出

Tab. ２　遺構一覧

遺構名	種類	検出面	長さ ×	幅 ×	深さ (cm)	埋土	備考
SD1	溝	3a 層上面		70	32	10YR 3/2 黒褐色・シルト砂質 , パミス 0.5㎝の黒色ブロック ２～ 3㎝の黄褐色ブロック含む	土器・鉄製品出土
SD2	溝	3a 層上面		35	8	10YR 4/2 灰黄褐色・砂質シルト , 黄色パミス 0.5cm 以下少量含む	
SD3	溝	3a 層上面	—	38	5	10YR 4/2 灰黄褐色・砂質シルト ,0.5cm 以下のパミス含む	
SD4	溝	3a 層上面	—	40	15	10YR 3/1 黒褐色・砂質シルト ,0.5㎝のパミス少量含む	
P5	ピット	3a 層上面	36	36	25	10Y 3/3 暗褐色・シルト質砂 , やわらかい	
SR6	小ピット	3a 層上面	—	—	10	10Y 3/3 暗褐色・シルト質砂	
SK7	土杭	3b 層上面	130	58	16 ～ 24	① 7.5YR 2/1 黒色・シルト .3a 層土に近い ② 10YR 3/2 黒褐色・シルト ,4 層土 小ブロック少量含む	
SK8	土杭	3b 層上面	124	51	30 ～ 24	① 7.5YR 2/1 黒色・シルト ② 10YR 2/2 黒褐色・砂質シルト ,4 層土をブロックで少し含む	
P9	ピット	4 層上面	39	25	52	2.5Y 3/1 黒褐色・シルト質砂 , 黄色パミス少量含む	
P10	ピット	4 層上面	45	43	44	10YR 2/2 黒褐色・シルト質砂 , 黄色パミス含む	
P11	ピット	4 層上面	79	35	56	10YR 2/2 黒褐色・シルト質砂 , 黄色パミス含む	
P12	ピット	4 層上面	40	28	36	① 10YR 3/2 黒褐色・砂質シルト , 黄色パミス含む ② 10YR 5/2 灰黄褐色・砂質シルト , 黄色パミス・白色パミス少量含む	
P13	ピット	4 層上面	30	—	42	10YR 3/2 黒褐色・砂質シルト ,10YR 4/4 褐色ブロック・炭粒少量含む	
P14	ピット	4 層上面	35	34	30	10YR 2/2 黒褐色・シルト質砂	
P15	ピット	4 層上面	81	35	18	10YR 2/2 黒褐色・シルト質砂 , 下部に黄色パミス・白色パミス含む	
P16	ピット	4 層上面	99	—	37	① 2.5YR 3/1 黒褐色・シルト質砂 , 黄色パミス少量含む ② ①に類似 ③ ①に 10YR6/8 明黄褐色ブロック含む（4 層土）	樹痕か
P17	ピット	4 層上面	30	23	48	10 YR 2/2 黒褐色・シルト質砂 , 黄色パミス含む	
P18	ピット	4 層上面	63	—	48	① 10YR 2/2 黒褐色・シルト ② ① + アカホヤ ,P16 ③と類似	
P19	ピット	4 層上面	39	—	31	① 10YR 4/4 褐色（②のブロック）多い ② P13 と同じ	

６．遺物

近世・近代の耕作土層と思われる２層からの出土が最も多く，陶磁器のほか，器種不明土器胴部片が認められる（Tab. ４）。土器片の多くは時期不明であるが，胎土や調整の様相から，一部のものは弥生土器や縄文時代晩期土器と類似するものも含まれている。

１は撹乱層出土の碗口縁部である。白化粧土が施され，近世のものと思われる。

№.２～ 14 は２層より出土したものである。２は 19 世紀以降の苗代川系の鉢口縁である。３は擂鉢の底部である。19 世紀以降の苗代川系のものである。４は近代のものと思われる磁器口縁である。5 は明治時代以降の染付で，文様は銅板転写されている。6 は小皿口縁で，口縁部に一部煤がみられる。灯明皿として使用された可能性がある。また，胎土や形態から中国産の可能性がある。７は磁器碗の胴部で 18 世紀末～ 19 世紀初頭の所産である。暦文と言われる縦の破線文が認められる。８は 18 世紀以降と思われる苗代川系の鉢もしくは片口の口縁部である。9 は厚手の苗代川系の壷口縁である。17 世紀後半～ 18 世紀前半に該当すると思われ，口唇部に貝目の痕跡が認められる。10 は土瓶の蓋である。18 世紀後半以降の苗代川系のものである。11 は加治木姶良系の碗の底部で，18 世紀後半以降に該当する。12 は外面に煤の付着がみられる瓦器である。火鉢か。13 は土師器口縁である。外面に煤付着が認められる。14 は刻み目突帯をもつ胴部片であり，小片であるが弥生の壷かと思われる。

№.15 は，3b 層より出土した縄文時代晩期と思われる鉢もしくは深鉢の口縁部である。外面にナデ・ミガキ痕が認められる。内面に薄く煤が付着している。

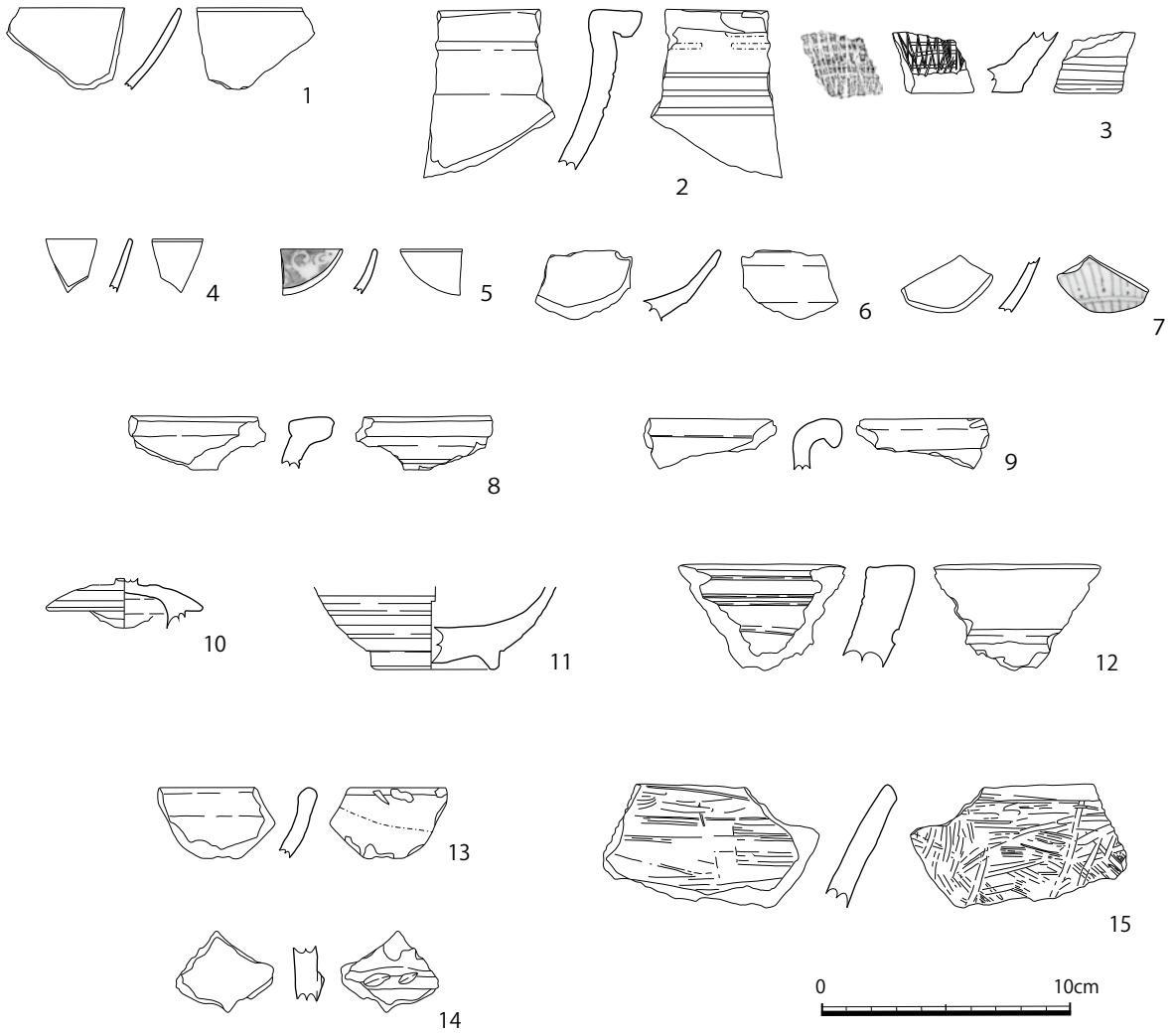
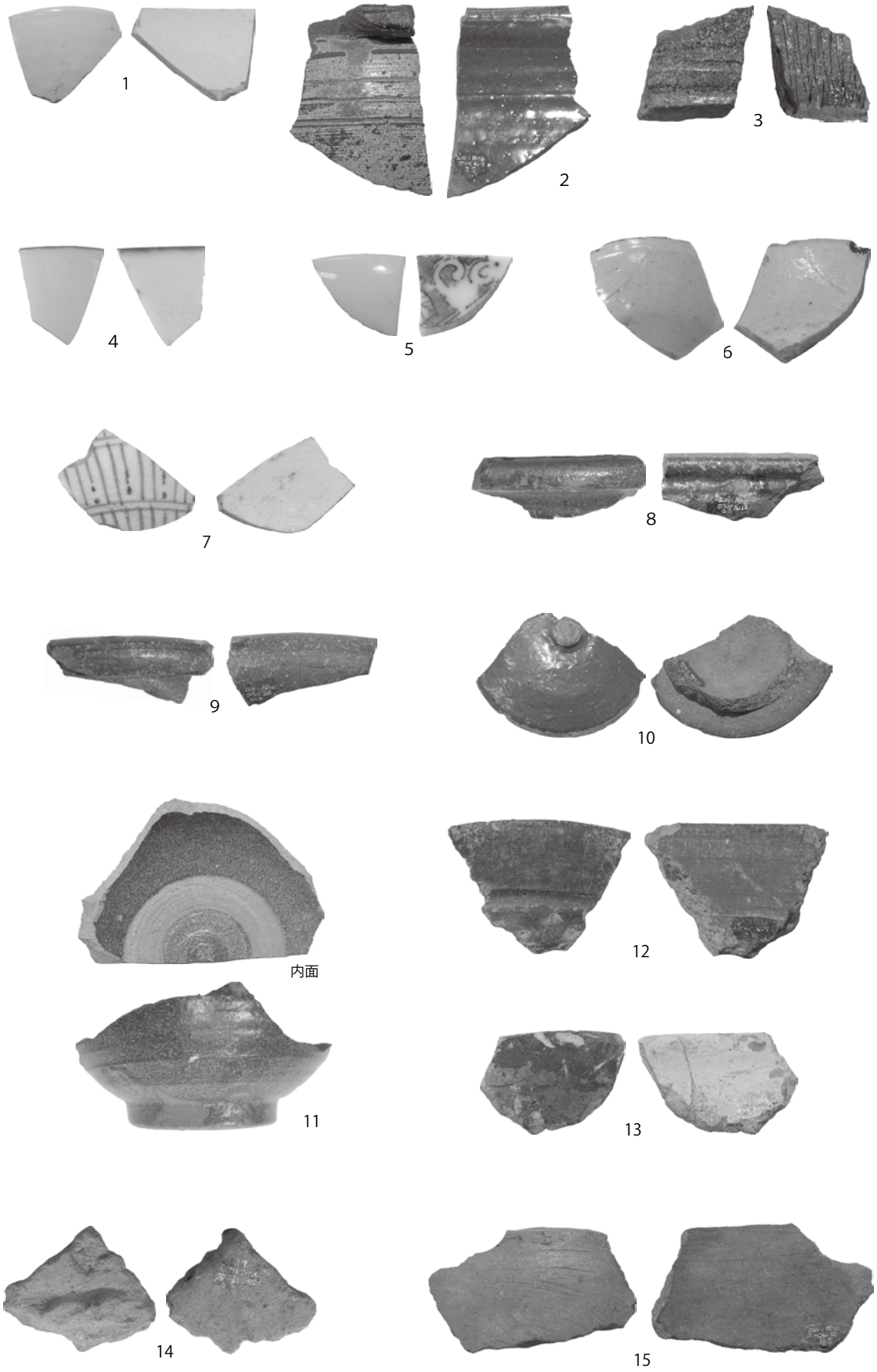


Fig.10　2016－1　出土遺物

７．まとめ

本調査は周辺の調査結果からも，２層は近世・近代の耕作土と思われ，３層は縄文時代晩期～弥生時代該当の包含層と想定される。３層上面で検出された溝状遺構の方向は、近世・近代の耕作地における土地区画を示していると言える。

また，3b 層上面にて検出された土坑の性格は不明であるが，近隣の鹿児島市魚見町魚見ヶ原遺跡にて検出された弥生時代遺構群に認められる土坑のうち，いくつかのものは類似する形態をもつ点が注目される。また，性格不明であるが，周辺の発掘調査においてもアカホヤ層上面にて多数のピット群が検出されている。



PL. 7　　2016－1 出土遺物

Tab. 3　遺物一覧表

Fig	No.	種別	器種	部位	層位	色調	胎土	調整ほか	備考
	1	磁器	不明	口縁部	1 層一括	釉調：N8/ 灰白色	胎土：N8/ 灰白色	内外面：施釉	白化粧土
	2	陶器	鉢	口縁部	2 層	外面：5Y8/2 灰白色 内面：2.5YR3/3 暗オリーブ褐色 上部：10YR4/1 褐灰色	黒・白・赤色粒，石英 胎土：5YR5/3 にぶい赤褐色	内外面：施釉	苗代川系 , 19C 以降
	3	陶器	擂鉢	底部	2 層	釉調：7.5Y4/2 灰オリーブ色 内面 7.5YR4/2 灰褐色 底部：7.5YR4/1 褐灰色	白・黒色粒・石英 胎土：2.5YR5/4 にぶい赤褐色	内外面：施釉	苗代川系、19C 以降
	4	磁器	不明	口縁部	2 層	内外面：N8/ 灰白色 7.5YR4/4 褐色 釉調：透明釉	白・黒色粒 胎土：白色	内外面：施釉	近代
	5	染付	不明	口縁部	2 層	内外面：透明釉	胎土：白色	内外面：施釉	近代 , 銅版転写
	6	磁器	皿	口縁部	2 層	内外面：N8/ 灰白色	白・黒色粒 胎土：N8/ 灰白色	内外面：施釉	口縁部一部煤付着 , 灯明皿か
	7	磁器	不明	胴部	2 層	内外面：透明釉	黒色粒 胎土：N8/ 灰白色	内外面：施釉	加治木・姶良系 ,18C 末～ 19C 前半 , 暦文
	8	陶器	鉢か片口	口縁部	2 層	内外面：7.5Y3/1 オリーブ黒 上部：10YR6/2 灰黄褐色	白・黒色粒 胎土：5YR5/3 にぶい赤褐色	内外面：施釉	18C 以降
10	9	陶器	壷	口縁部	2 層	外面：7.5Y3/1 オリーブ黒色 内面：10YR3/3 暗褐色	黒・白色粒 胎土：7.5YR5/4 にぶい褐色	内外面：施釉	苗代川系 , 17C 後半～ 18C 前半
	10	陶器	土瓶	蓋	2 層	外面：7.5Y3/3 暗褐色 内面：10YR:5/3 にぶい黄褐色	白・黒色粒・石英 胎土：5YR5/4 にぶい赤褐色	外面：施釉	苗代川系 , 18C 後半以降
	11	陶器	碗	底部	2 層	外面：7.5YR4/2 灰褐色 内面：7.5YR6/3 にぶい褐色	白・黒色粒・石英 胎土：7.5YR7/3 にぶい橙色	外面：施釉	18C 後半以降
	12	瓦器	火鉢か	口縁部	2 層	外面：2.5YR3/1 黒褐色 内面：10YR3/1 黒褐色 器肉：5YR6/6 橙色	黒・白色粒，石英		外面煤付着
	13	土師器	不明	口縁部	2 層	外面：2.5Y5/1 黄灰色 内面：10YR8/3 浅黄橙色 器肉：10YR8/3 浅黄橙色	黒・白・茶色粒，角閃石		外面煤付着
	14	弥生土器	壷か	胴部	2 層	外面：5YR7/6 橙色 内面：5YR6/6 橙色 器肉：5Y5/1 灰色	白・黒色粒，角閃石，石英	刻目突帯	
	15	縄文晩期	鉢	口縁部	3b 層	外面：10YR6/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y5/2 暗灰黄色	白・黒・橙色粒，石英		内面煤付着

Tab. 4　層別遺物出土数

時代	時期	種別	器種	表採・攪乱	2 層	3a 層	3b 層	SD1	SD2	SK8	計
時期不明		土器			35	15	13	2	3	2	70
縄文	晩期	土器	深鉢・鉢	1							1
弥生	不明	土器	壺		1	1					2
古代～中世		土師器	不明		1						1
近世～近代		瓦器			1						1
	18C 末～	さつま磁器			1						1
	18C	苗代川系	壺・甕		1						1
	18C	苗代川系	土瓶		1						1
	18C 後半以降	苗代川系	鉢か		1						1
	19C	苗代川系	擂鉢・鉢		2						2
	19C	加治木姶良系	碗		1						1
	—	磁器		1	6						7
	—	陶器			14						14
その他	金属製品	金属器	不明		5						5
	石	軽石			1						1

Ⅲ　立会調査

平成 28（2016）年度は，郡元団地内で 8 件，桜ヶ丘団地内で 4 件，事業数としては合計 12 件の立会調査が計画され，8 件を実施した。2016 - I については，平成 29 年 4 月の実施となったため，来年度の年報にて報告する。国立大学法人化後，立会調査は鹿児島市教育委員会が担当することになっており，埋蔵文化財調査センターはオブザーバーとして立会う。ガス漏れや漏水などの緊急時や，双方の日程の都合のつかない場合は，埋蔵文化財調査センター単独で調査を行う場合もある。以下に各立会調査の概要について記す。

2016-A　桜ヶ丘団地 B-4（（病）駐車場 A ゲート東側法面掘削工事）

調査地点　桜ヶ丘団地 B - 4 区

調査期間　2016 年 5 月 31 日

調査担当　鹿児島市教育委員会　新保朋久

　　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

平成 28 年 4 月 24・25 日の降雨により駐車場 A ゲート東側の法面一部が崩壊し，車道まで土砂が流出する状況となった。本地点は過去にも崩壊を繰り返している地点で，法面崩壊を防ぎ車両等の通行安全確保のために，早急に法面崩壊箇所の勾配を緩やかにする掘削工事が必要となった。

本地点は包含層が存在している可能性が高いと思われたが，崖面がオーバーハングしており，作業員を入れた本格的な発掘調査は安全上困難な状況であった。よって調査は崖面掘削に伴う立会調査となり，降雨が本格化する前に工事を終了させる必要があったため，5 月 30 日より工事を開始することになった。工事としては，オーバーハング部分を掘削除去し，斜面を整えたのち種子吹き付けを行う作業である。

Fig.11 は掘削地点の断面図である。網掛部分のオーバーハングした崖面を掘削除去し，その後，一部斜面を清掃し傾斜面にて土層観察を行った。立会調査の結果，掘削地点は包含層は残存していたものの，遺物等は認められなかった。

2016-B　郡元団地 R･S-7（教育学部附属小学校遊具（高鉄棒・うんてい）撤去工事）

調査地点　郡元団地 R・S - 6・7 区

調査期間　2016 年 8 月 1 日

調査担当　鹿児島市教育委員会　新保朋久

　　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

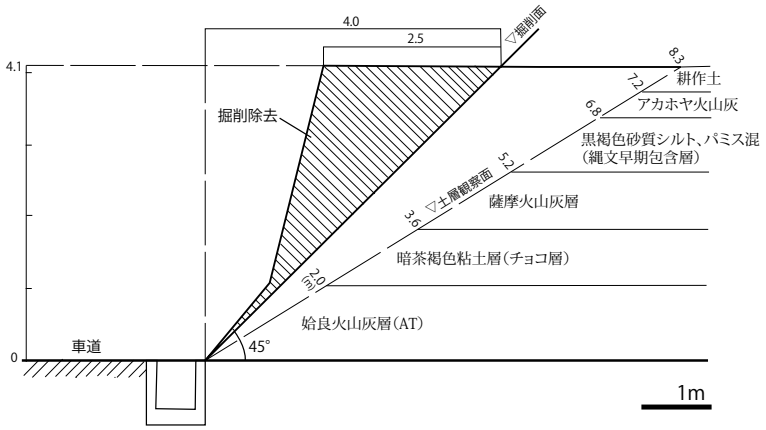


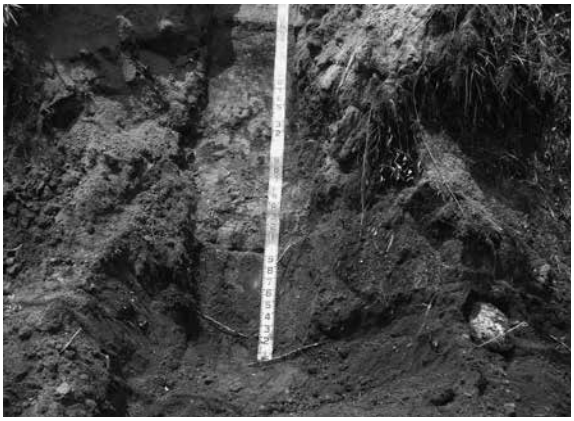
Fig.11　2016－A 土層断面図
（S=1 ／ 100）

2016-A　崖面掘削作業

2016-A　崖面掘削作業

2016-A　崖面掘削作業

2016-A　土層断面上部



2016-A　土層断面下部

2016-A　土層断面

PL. 8　2016－A 掘削状況，土層断面

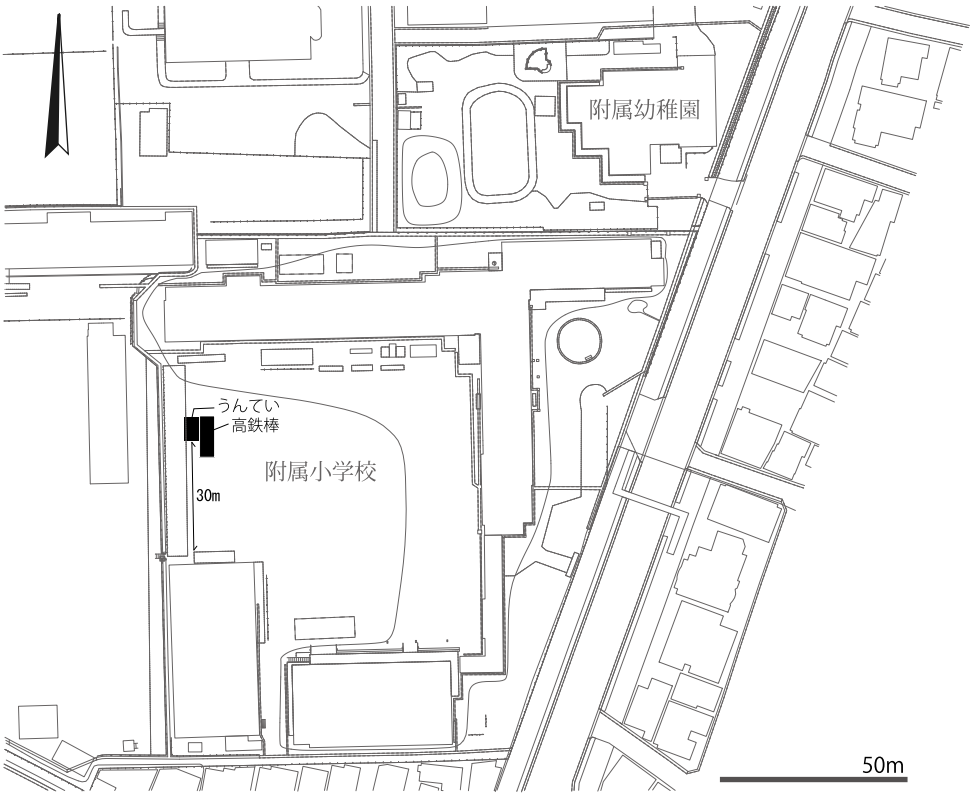


Fig.12　2016－B 掘削地点（S=1 ／ 2000）

2016-B　掘削作業

2016-B　高鉄棒部分土層

2016-B　うんてい撤去状況

2016-B　うんてい部分土層

PL. 9　2016－B 掘削状況，土層断面

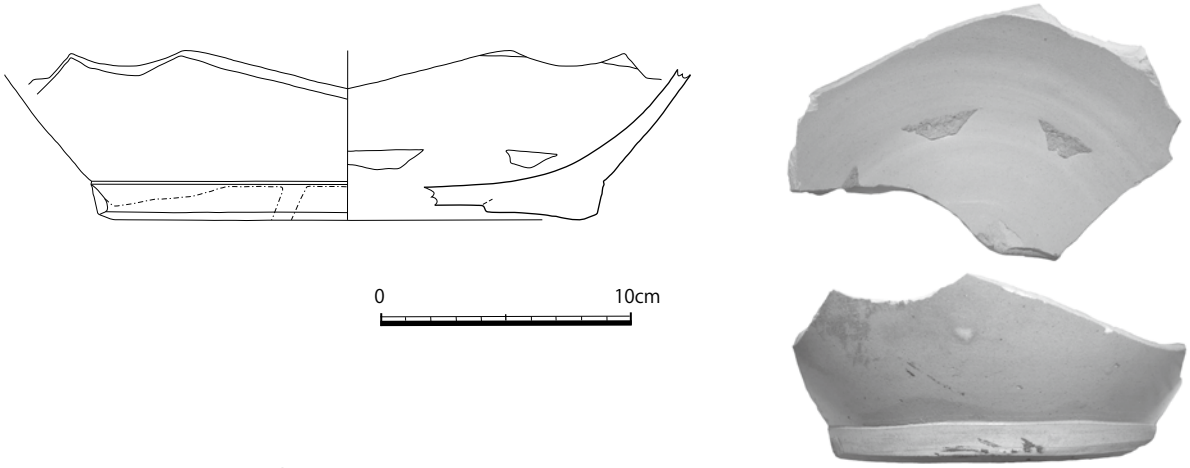


Fig.13　2016－B 出土遺物

教育学部附属小学校校庭の砂場に設置された遊具の撤去を，夏休み期間中に行うことになった。遊具の埋設深度が分かる図面が残されていないことから，基礎撤去作業において立会調査により確認しながら掘削を行うこととなった。基礎設置に必要な掘削深度は 60 ～ 80cm とのことであったが，若干深掘りをしてもらい，土層の確認を行った。

その結果，うんてい部分掘削においては，地表下約 80cm まで撹乱層，高鉄棒部分では地表下 85cm 以下では黒褐色砂質シルト層が確認され，その土層内からは土器小片が多く認められた。だが，パミスも含まれており撹乱の可能性もある。また，高鉄棒部分掘削地点の撹乱層より陶器片が 1 点出土している（Fig.13）。近代以降のものと思われ，肥前もしくは岩見焼にも類似する底部である。内外面に施釉され，内面には重ね焼の痕跡が残る。

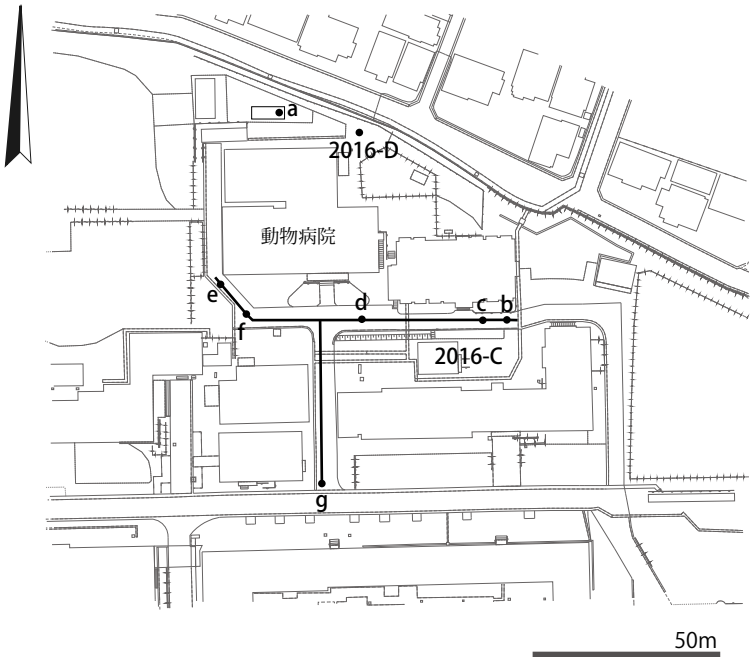
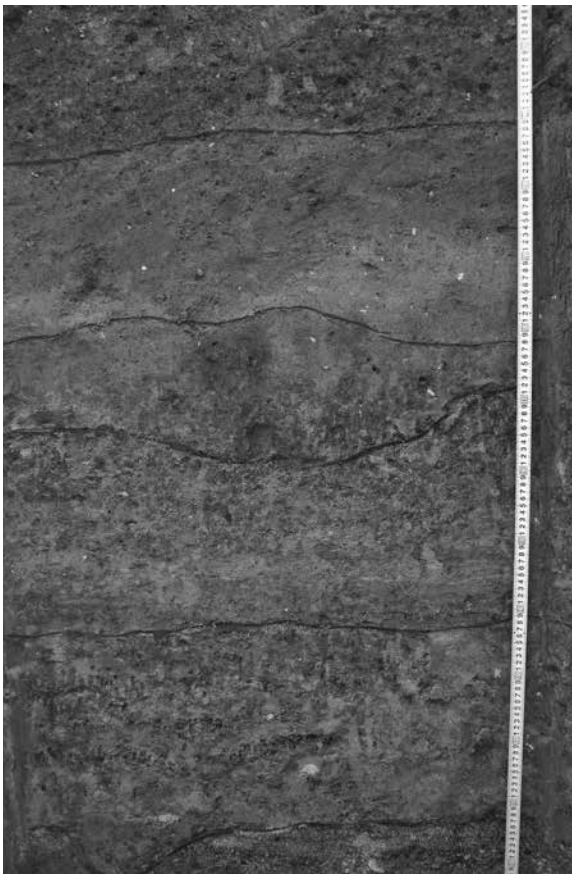


Fig.14　2016－C・D 掘削地点（S=1 ／ 2000）

2016-C　a 地点 掘削状況

2016-C　b 地点 掘削状況

2016-C　a 地点 土層断面



2016-C　a 地点 土層断面 2 ～ 7 層

2016-C　a 地点 土層断面 6 ～ 10 層

PL.10　2016-C a・b 地点

2016-C　c 地点 掘削状況

2016-C　c 地点 土層断面

2016-C　d 地点 掘削状況

2016-C　d 地点 土層断面

2016-C　e 地点 掘削状況

2016-C　c 地点土層

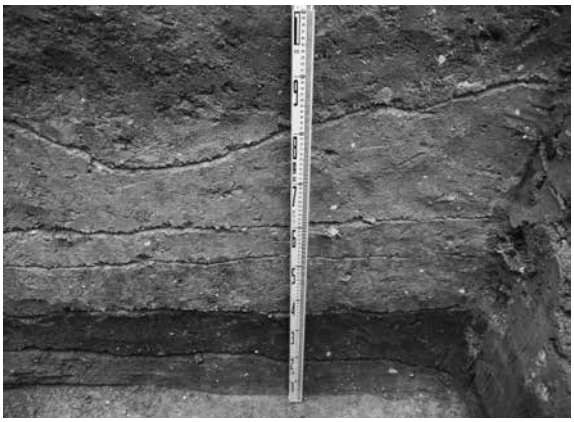
PL.11　2016-C c ～ e 地点

2016-C　f 地点　掘削状況

2016-C　g 地点　掘削状況

2016-C　f 地点 掘削状況

2016-C　g 地点 土層断面



2016-C　g 地点 土層断面

2016-D　掘削状況

2016-D　掘削状況

PL.12　2016-C f・g 地点　2016-D

2016-C　郡元Ａ～Ｃ－５～６区（小動物臨床獣医学研修センター（仮称）新営その他機械設備工事）

調査地点　郡元団地Ａ～Ｃ－５～６区

調査期間　2016 年９月５（a 地点）・29（b ～ d 地点）・30（e ～ g 地点）日，10 月 14 日（g 地点）

調査担当　鹿児島市教育委員会　新保朋久

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

郡元キャンパスでは，小動物臨床獣医学研修センター（仮称）新営工事が計画された。工事箇所は郡元キャンパス内最北端に位置する動物病院周辺である。ほとんどが配管工事であるが，一ヶ所「血液排水除外装置」が含まれる。本地点は近世の水田と河川跡の分布域であることが予想されたが，本工事地点南側には，近世の水田で掘削された弥生時代～古墳時代の遺物包含層が存在していることから，慎重な掘削を行い土層の確認を行う必要があると考えられ，立会調査を行うこととなった。

a 地点は，血液排水除外装置設置地点であり，2016-D の樹木抜根の場所が隣接していたため，同日に実施することになった。地表下約 357cm の掘削を行い，地表下約 97cm より水田層と思われる土層が確認された。数枚の河砂層（氾濫によるものか）を挟む。遺物の出土は見られなかった。３～６・８・９層は水田層と思われる。９月 29 日には，動物病院南側道路の３ヶ所（b ～ d 地点）の掘削を実施した。b 地点は地表下 115cm 撹乱であった。c 地点は地表下 135cm で河川氾濫砂層が認められた。d 地点は地表下約 90cm まで撹乱されており，その下に粘質土と粗砂混土層，河川氾濫砂層が確認された。いずれの地点の遺物の出土は認められなかった。翌９月 30 日には e ～ g 地点の掘削を行った。e 地点は地表下 105cm，f 地点は地表下 98cm 撹乱層であった。g 地点は地表下 115cm まで掘削を行ったが，後日さらに深く掘削し側溝下にガス管をくぐらせるとのことで，再度 10 月 14 日に掘削を行った。地表下約 56cm まで撹乱を受けていたが，その下層には水田層，また，弥生～古墳時代相当層かと思われる黒褐色シルト層が確認されたが，遺物の出土は見られなかった。g 地点に比べ，北側 a 地点は水田層が複数枚確認される。

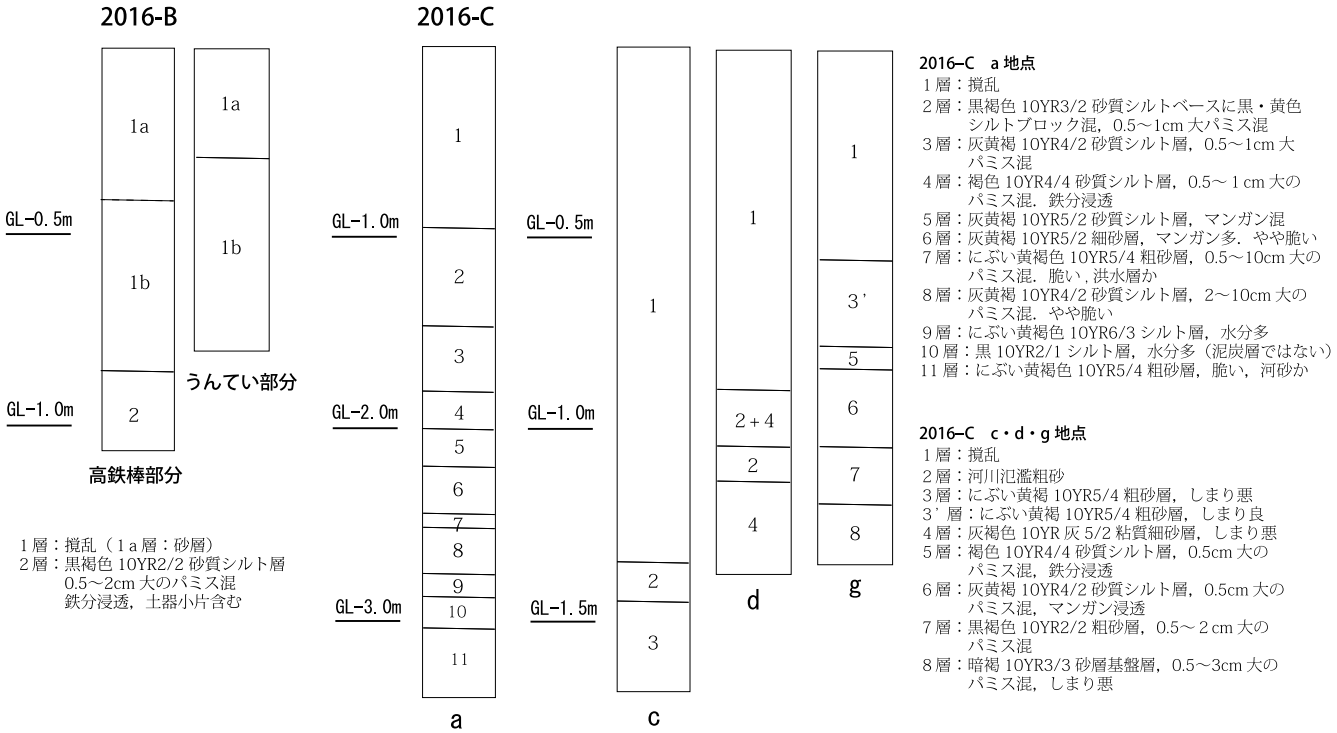


Fig.15　2016-B・C 土層柱状図

2016-D　郡元団地Ｂ－６区（小動物臨床獣医学研修センター（仮称）新営その他工事）

調査地点　郡元団地Ｂ－６区

調査期間　2016 年９月５日

調査担当　鹿児島市教育委員会　新保朋久

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

郡元キャンパスでは，小動物臨床獣医学研修センター建設に伴い，動物病院北側の樹木（クスノキ）の抜去を行う必要が生じた。2016-C の a 地点の近接地点であったため同日に調査を行った。結果，掘削深度が 2016-C の a 地点１・２層の範囲内であることが確認され，立会調査終了となった。

2016-E　桜ヶ丘団地Ｃ－６区（基幹・環境整備（医療ガス設備）工事）

調査地点　桜ヶ丘団地Ｃ－６区

調査期間　2016 年 12 月７日

調査担当　鹿児島市教育委員会　新保朋久

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

桜ヶ丘キャンパス内において，2016 年 10 月以降，医療ガスボンベ庫新営工事が計画されたが，本掘削地点はその予定地の西側に隣接する箇所の外灯配線設備工事である。掘削深度 30cm であるが，周囲の立会調査の結果からは縄文時代包含層やアカホヤ二次堆積層が確認されており，本地点も包含層が残存している可能性があった。クランク部分の２ヶ所（a・b 地点）50cm の掘削を行い，予定されていたガスボンベ庫新営工事に伴う発掘調査（2016-1）の土層と照らし合わせると，撹乱の範囲内であると判断された。遺物等の出土も認められなかった。

2016-E　掘削地点

2016-E　a 地点　掘削状況

2016-E 掘削状況

2016-E　b 地点　掘削状況

PL.13　2016－E 掘削状況

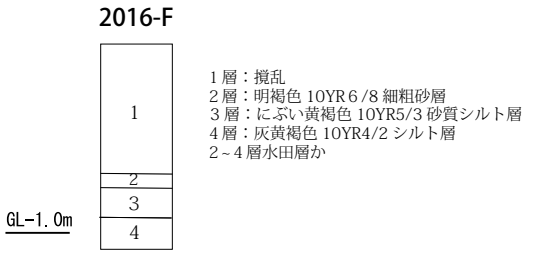


Fig.16　2016－F 土層

2016-F　掘削状況

2016-F　掘削状況

2016-F　水田２～３層

2016-F　土層断面

2016-F　水田層検出状況（掘削底面）

2016-F　水田層

PL.14　2016－F　土層・掘削状況

2016-F　郡元団地Ｇ－９区（鹿児島大学郡元他連合農学研究科棟身障者トイレ改修その他工事）

調査地点　郡元団地Ｇ－９区

調査期間　2017 年２月 14 日

調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

工事箇所は，郡元団地内の学術情報基盤センター入口部分のバリアフリー工事である。周辺の過去の調査では，工事地点周辺は古代～近代の水田の分布域であり地表下 50 ～ 100cm で包含層に達する。工事は既存側溝の一部やりかえ工事であり大部分が既掘部と思われたが，若干大きさが拡張するとのことで立会調査となった。

工事最大深度は 93cm の予定であったが，若干深く掘り土層の確認を行った。道路に並行して掘削部分の真中 35cm 幅で包含層が残存していた。地表下 77cm 以下は水田層と思われる層が確認された。

2016-G　桜ヶ丘団地Ｃ－６区（医療ガスボンベ庫新営その他工事）

調査地点　桜ヶ丘団地Ｃ－６区

調査期間　2016 年 12 月 14 日，2017 月 1 月 18 日，２月 21 日

調査担当　鹿児島市教育委員会　新保朋久

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

本掘削地点も 2016- 1 同様，ガスボンベ庫西側に配管を設置する工事であり，地表下 80 ～ 100cm の掘削工事が計画された。マンホール設置部分（a 地点:2016 年 12 月 14 日），東側ハンドホール撤去（b 地点:2017 年 1 月 18 日），側溝設置の掘削（c 地点：2017 年２月 21 日）を行った。

a 地点は，マンホール設置のため２×２m 範囲で，地表下 105cm まで掘削を行った。地表下 50cm まで撹乱層であり，その下よりアカホヤ火山灰層が認められ，遺物は出土しなかったが地表下 90㎝下には縄文時代早期包含層が残存していた。b 地点は 2016-1 発掘調査東側壁に残存していたハンドホールの撤去作業に伴い,包含層に影響がないかどうか確認を行った。ハンドホール部分には包含層は残存していなかったが,重機がトレンチ端を壊してしまったためその箇所の包含層内の確認を行ったが遺物の出土はみられなかった。c 地点は側溝設置のため地表下 80cm で掘削を行い，東に傾斜していく土層の様子を確認した。所々にピット状の落ち込みを確認したが，掘り込み面と埋土から現代のものと確認した。２層より弥生土器かと思われる胴部片 1 点が出土している。

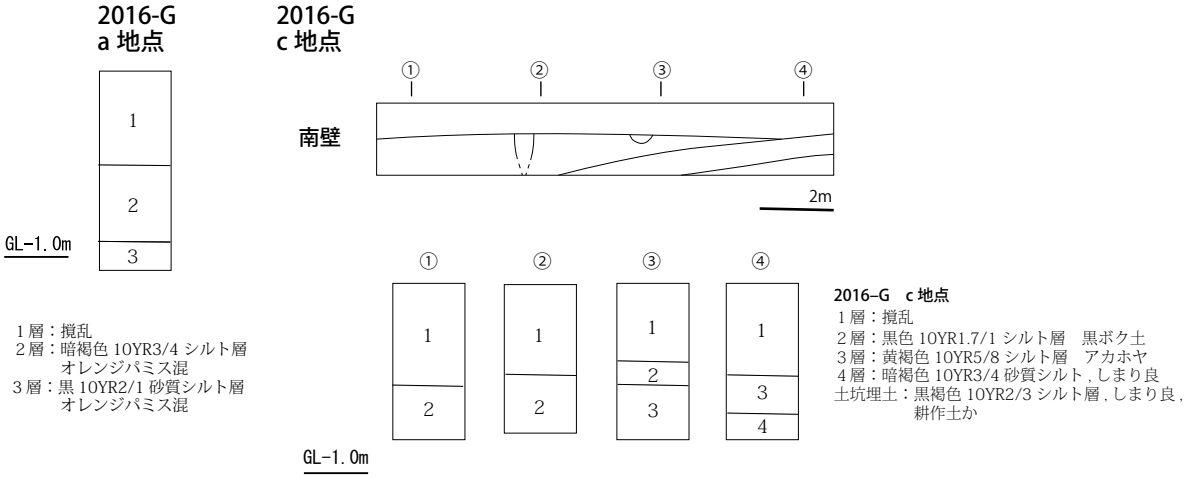


Fig.17　2016－G 土層柱状図

2016-G　a 地点掘削状況

2016-G　a 地点土層

2016-G　b 地点掘削状況

2016-G　b 地点掘削状況

2016-G　b 地点掘削状況

2016-G　c 地点 掘削状況

2016-G　c 地点掘削状況

PL.15　2016－I・J・L　掘削状況

2016-G　c 地点土層

2016-G　c 地点土層

2016-G　c 地点土層

2016-G　c 地点土層

PL.16　2016－G　土層・掘削状況

2016-H　郡元団地Q－６区（南地区給水設備修繕工事）

調査地点　郡元団地Q－６区

調査期間　2017 年 1 月 6 日

調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

2017 年 1 月 5 日，教育学部にて漏水発生との連絡があり，正確な漏水個所を確認したいとのことで翌日急遽工事する必要が生じた。そのため，埋蔵文化財調査センターのみで立会にて土層の確認を行うこととなった。まず漏水箇所確認のためカッターを入れ，10cm 深度で漏水箇所を確認し，さらに掘削し 70cm 深度で鉄管と漏水を確認した。周辺は包含層は一切なく，遺物出土もみられなかった。

2016-J　郡元団地E－10 区（外灯設備改修工事）

調査地点　郡元団地Ｅ－ 10 区

調査期間　2017 年 3 月 21 日

調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

郡元キャンパスにて外灯設備改修工事が計画された。本掘削工事地点は，過去の立会調査の様相から，近世以降の水田跡や河川跡が確認できる箇所である。工事は，既存の外灯を抜き取り配線部分を若干掘削することになるため，立会調査となった。

掘削深度は地表下 140cm となり，3 層以下は斜位に堆積層が確認された。粗砂混じりの水田層もしくは河川氾濫層と思われる。

2016-H　漏水地点

2016-H　掘削状況

2016-H　掘削状況

2016-H　配管漏水状況

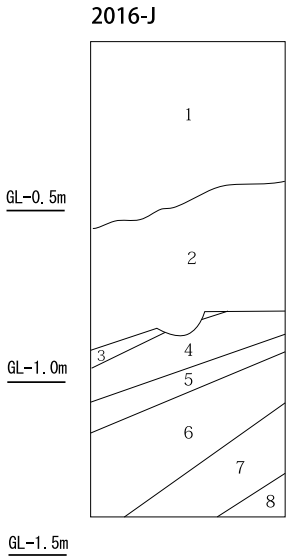
2016-J　掘削地点

2016-J　掘削状況

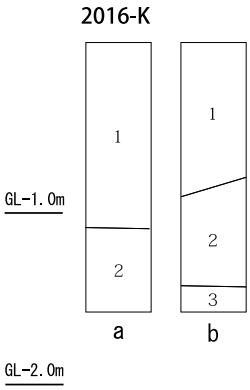
2016-J　土層

2016-J　土層下部

PL.17　2016－H・J　土層・掘削状況



2016-J
1層：撹乱
2層：灰黄褐 10YR4/2 砂質シルト層，0.5cm 大パミス混，しまり良
3層：にぶい黄褐 10YR5/4 砂質シルト層，0.5cm 大パミス混，
しまり良，マンガン混
4層：にぶい黄褐色 10YR5/4 砂質シルト層，0.5～1cm 大パミス混，
しまり良，マンガン混
5層：にぶい黄褐色 10YR4/3 砂質シルト層，0.5～1cm 大のパミス混，
しまり良，マンガン混，黒褐色 10YR2/2 シルトブロック混
6層：灰黄褐 10YR4/2 砂質シルト層，
黒褐色 10YR2/2 シルトブロック混，河川粗砂，軽石礫，
にぶい黄褐色 10YR4/3 砂質シルトの混土（河川氾濫？）
7層：褐色 10YR4/4 シルト質粗砂層，しまり良，
0.5～1cm 大パミス混
8層：河川粗砂，しまり悪



2016-K
1層：撹乱
2層：薩摩火山灰層
3層：暗茶褐色粘質土層（チョコ層）

Fig.18　2016－J・K 土層柱状図

2016-K　a 地点

2016-K　a 地点 土層

2016-K　b 地点

2016-K　b 地点 土層

PL.18　2016－K 土層・掘削状況

2016-K　桜ヶ丘団地Ｈ～Ｍ－８・９区（外灯設備改修工事）

調査地点　桜ヶ丘団地Ｈ～Ｍ-８・９区

調査期間　2017 年３月 14 日

調査担当　鹿児島市教育委員会　新保朋久

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　中村直子

桜ヶ丘キャンパスにおいて，外灯設置工事を行うことになり，4 ヶ所の立会を行った。a 地点は地下 160cm まで掘削を行い，地表下 110cm まで撹乱層で，その下位層に薩摩火山灰層が認められた。また b 地点は，地表下 160cm まで掘削を行った。地表下 90 ～ 80cm までは撹乱層であり，それより下位は薩摩火山灰層が 80cm ほど堆積し，その下位にチョコ層の堆積が認められた。c 地点は，地表下 40cm まで掘削したが撹乱層であった。d 地点は掘削をせず壁面にて土層確認を行ったが，地表下 50cm まで撹乱層であった。いずれの地点も遺物は出土しなかった。

2016-L　郡元団地Ｉ－５区（共通教育棟１号館北側埋設排水配管修繕工事）

調査地点　郡元団地Ｉ-５区

調査期間　2017 ３月 31 日

調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

郡元キャンパス内で，2017 年３月 30 日に道路陥没地点が確認された。インターロッキングが陥没地に流れ込み危険な状況であったため，鹿児島市教育委員会，鹿児島大学施設部と協議を行い早急に緊急工事を行うことになった。工事地点は過去の調査において古墳時代の住居跡の密集した地点であったため，緊急の

2016-L　掘削地点

2016-L　掘削状況

2016-L　土層

2016-L　共同溝

PL.19　2016－L 土層・掘削状況

立会調査となった。立会の結果，工事地点は共同溝や下水管であったため撹乱されており，遺物包含層には影響がなく工事は終了した。

2016- 慎重４　鹿児島大学法文学部植樹工事

調査地点　郡元団地 K- 4 区

調査期間　2016 年 12 月 26 日

調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター　新里貴之

鹿児島大学郡元キャンパスにおいて，法文学部同窓会の植樹工事が予定された。掘削深度は 50cm の予定であり，これらの地点は地表下 1 m程度まで撹乱されていると思われ，慎重工事での対応となったが，古墳時代集落域に近接しているためセンターのみで立会を行った。その結果，地表下約 30cm より灰黄褐色砂質シルト層が確認された。恐らく，近代～近世の水田層に該当すると思われる。共同溝埋設地点と近接し，遺物の出土もみられなかった。

Ⅳ　遺物整理

平成 28（2016）年度の報告書第 13 集掲載予定の桜ヶ丘団地 E-8・9 区医学部附属病院 MRI-CT 装置棟増築に伴う発掘調査（1995-6）と，同年刊行の年報 31 掲載の平成 27（2015）年度試掘・立会調査遺物の注記・分類・実測・トレースを行った。そして，平成 27 年度に引き続き，昭和 51（1976）年度理学部 2 号館増築予定地（釘田第 8 地点）発掘調査（1976-1）出土土器の分類，同地点出土土器の実測を行った。また，共通教育棟 2 号館建設に伴う発掘調査（2007–2）については，注記を行った。

Ⅴ　刊行物

桜ヶ丘団地 E-8・9 区医学部附属病院 MRI-CT 装置棟増築に伴う発掘調査（1995-6）を掲載した「鹿児島大学埋蔵文化財調査センター第 13 集」の発掘調査報告書を刊行した。また，平成 27（2015）年度の発掘調査概要報告（2015-1・2），立会調査（2015–A ～ M，2014-B），その他事業について掲載した「鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 31」を刊行した。

Ⅵ　遺物保管

大学構内出土遺物は保存管理・活用も考慮すると一括収納が望ましいが，スペース確保の問題もあり現在は各部局にて収蔵している。これらの遺物については，例年遺物収蔵状況の確認を行っており，平成 28 年度は学内 15 ヶ所の遺物保管場所について，湿度･気温等一定環境の収蔵状況が保たれていることを確認した。また，理工系総合研究棟地下・工学部実験工場に保管している木製品は水に浸けた状態で保存しており，年に一度の水替え作業を行った。

Ⅶ　普及啓発活動その他

2016 年 6 月に法文学部の博物館実習生の受け入れを行い，作業としては主に土器表面の圧痕調査を行った。資料貸出としては，西都原考古博物館へ須恵器を，鹿児島市ふるさと考古博物館へ構内出土土器・木製品の貸出を行った。その他，鹿児島大学法文学部の学生による附属小学校出前授業のため，鹿大構内遺跡出土資料の貸出を行った。

学生による付属小学校での出前授業

学生による付属小学校での出前授業

公開講座

都城市志和池地下式横穴墓群レーダー探査調査

公開講座ポスター

PL. 20　普及啓発・地域貢献活動

また, 2016 年 10 月 22 日,『考古学の諸分野』と題して埋蔵文化財調査センター主催の公開講座を行った。講座内容は,「実験考古学のいろいろ（寒川)」,「土器と植物（中村)」,「トカラ列島・平島の清朝磁器と漂着船伝承（新里)」の 3 テーマであり，40 名近くの参加者があった。

地域貢献として，センター所蔵の地下レーダー探査機を用いた調査を 3 件行った。古墳時代の地下式横穴墓や中世の大溝の検出については有効なデータを提供することができた。

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則

（趣旨）

第１条　この規則は，国立大学法人鹿児島大学常置委員会規則（平成 16 年４月１日制定）第３条第３項に基づき，国立大学法人鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という）に関し，必要な事項を定める。

（組織）

第２条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

（１）　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長（以下「センター長」という）。

（２）　各学部，大学院理工学研究科及び大学院医歯学総合研究科の教授，准教授又は講師のうちから選出された者　各１名

２　前項第２号の委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

第３条　委員会は，次に掲げる事項について審議する。

（１）　調査実施計画に関すること。

（２）　埋蔵文化財調査センターの予算に関すること。

（３）　その他埋蔵文化財の業務に関すること。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き，第２条第１項第１号をもって充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

（議事）

第５条　委員長は，委員の過半数の出席をもって成立し，議事は，出席委員の過半数をもって決し，可否同数の場合は議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聞くことができる。

（事務）

第７条　委員会に関する事務は，施設部企画課において処理する。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が別に定める。

附　則

１　この規則は，平成 16 年４月１日から施行する。

附　則

１　この規則は，平成 18 年４月１日から施行する。

附　則

１　この規則は，平成 19 年４月１日から施行する。

２　この規則の施行前に委員となった助教授は，その任期の満了の日まで引き続き委員とする。

附　則

１　この規則は，平成 19 年 11 月 28 日から施行し，平成 19 年４月１日から適用する。

附　則

１　この規則は，平成 20 年１月１日から施行する。

附　則

１　この規則は，平成 21 年４月１日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則

（趣旨）
第１条　この規則は，鹿児島大学学則（平成 16 年４月１日制定）第７条第２項の規定に基づき，鹿児島大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という）に関し，必要な事項を定める。
（目的）
第２条　センターは，鹿児島大学（以下「本学」という）の埋蔵文化財の調査に関する業務を行い，本学内に存在する埋蔵文化財の保護を講ずることを目的とする。
（業務）
第３条　センターは，次の業務を行う。
（１）　調査実施計画の立案
（２）　発掘調査，分布調査および確認調査
（３）　調査報告書の作成
（４）　その他必要な事項
（職員）
第４条　センターに，次の職員を置く。
（１）　センター長（以下,「センター長」という）
（２）　主任
（３）　その他必要な職員
第５条　センター長は，本学の考古学に関連する教員のうちから国立大学法人鹿児島大学学内共同研究施設等人事委員会（以下「委員会」という）の意見を参考にして，学長が選考する。
２　センター長は，センターの業務を掌理する。
３　センター長の任期は２年とし，再任を妨げない。
４　センター長に欠員を生じた場合の補欠のセンター長の任期は，前任者の残任期間とする。
（主任等）
第６条　主任は，調査室の職員の中から，特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を委員会が推薦し，学長が選考する。
２　主任は，センター長の命を受けてセンターの業務を処理する。
３　職員は，センターの業務に従事する。
（事務）
第７条　センターに関する事務は，施設部企画課において処理する。
（雑則）
第８条　この規則に定めるもののほか，センターに関し必要な事項は，別に定める。
附則１　この規則は，平成 16 年４月１日から施行する。
２　この規則施行後，最初のセンター長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

附　則
１　この規則は，平成 22 年１月 29 日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（平成 28 年 4 月 1 日現在）

委員長　中村直子（埋蔵文化財調査センター　センター長）
委　員　渡辺芳郎（法文学部）
今由佳里（教育学部）
秦重史（理工学研究科・理学系）
三隅浩二（理工学研究科・工学系）
田松裕一（医歯学部総合研究科）
大渡昭彦（医学部）
嶺﨑良人（歯学部）
曽根晃一（農学部）
畑井仁（共同獣医学部）
西隆昭（水産学部）

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター（平成 28 年 4 月 1 日現在）

センター長	教授	中村直子
	助教	新里貴之
	特任助教	寒川朋枝
技術補佐員		篠原美智子
		濵田綾子
		東 友子

Kagoshima University Research Center for Archaeology Report Vol.32

CONTENTS

Capter

1 Report of archaeological reserch in fiscal year 2016 …… 1
2 Report of excavation at Area C - 6 in Sakuragaoka Champus …… 5
3 Report of rescue surveys 2016 …… 22
4～7 Report of other jobs …… 38

Published by
Kagoshima University Research Center for Archaeology
2018